



寝取り 無法地帯

林間郷

りんかんきょう

1

葵抄

夫に
懺悔したい

…だめ

だめよ

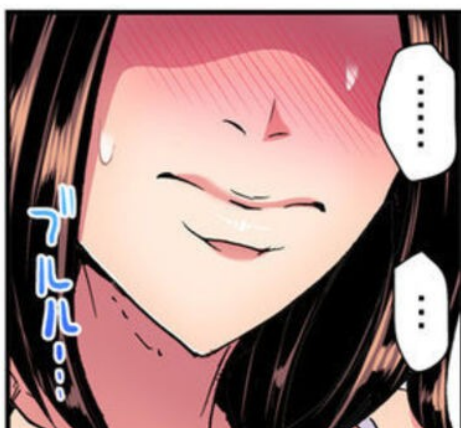
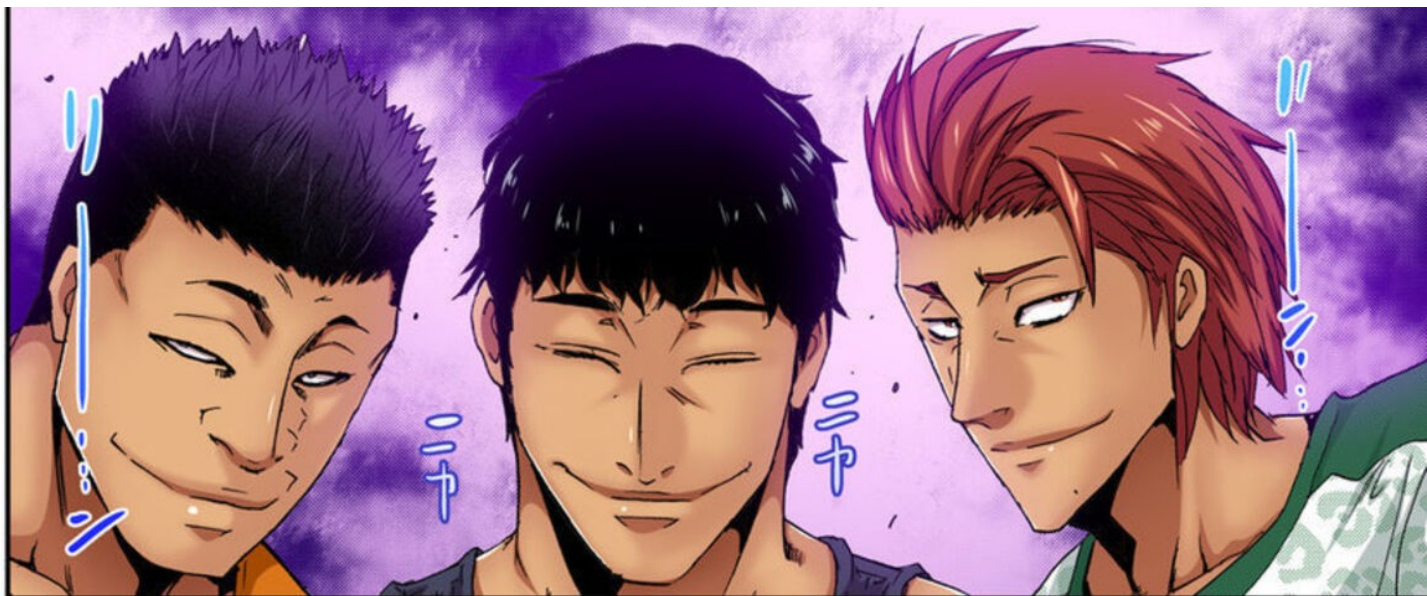
もう…
こんな事は…

ただの…若者たちとの
一晚の火遊びと
タ力を括っていた事を…

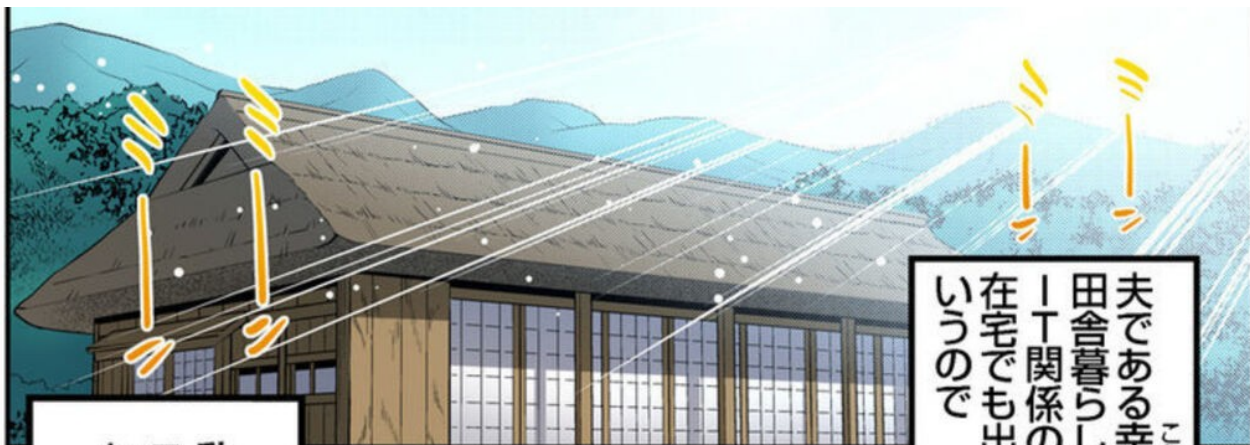
平々気っス
だいじょぶッス

だくからるる

奥さん♡

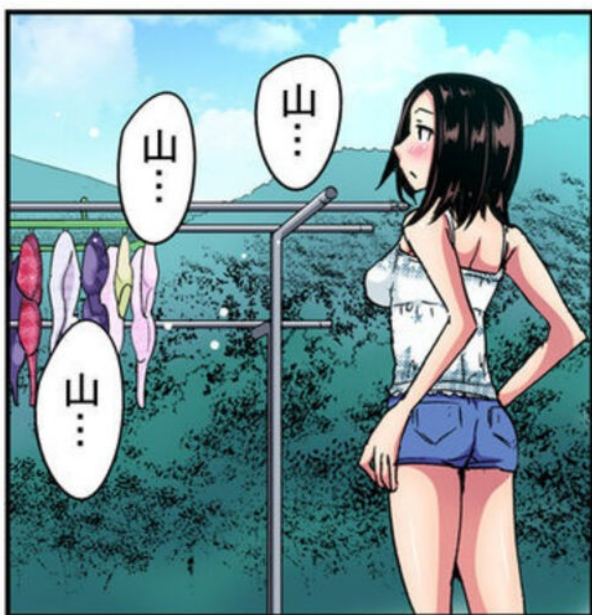






こうたろう
夫である幸太郎にとって
田舎暮らしは憧れだった
IT関係の仕事は
在宅でも出来ると
いうので

私たち夫婦は
この村に移住する事
になった



山…

山…

山…



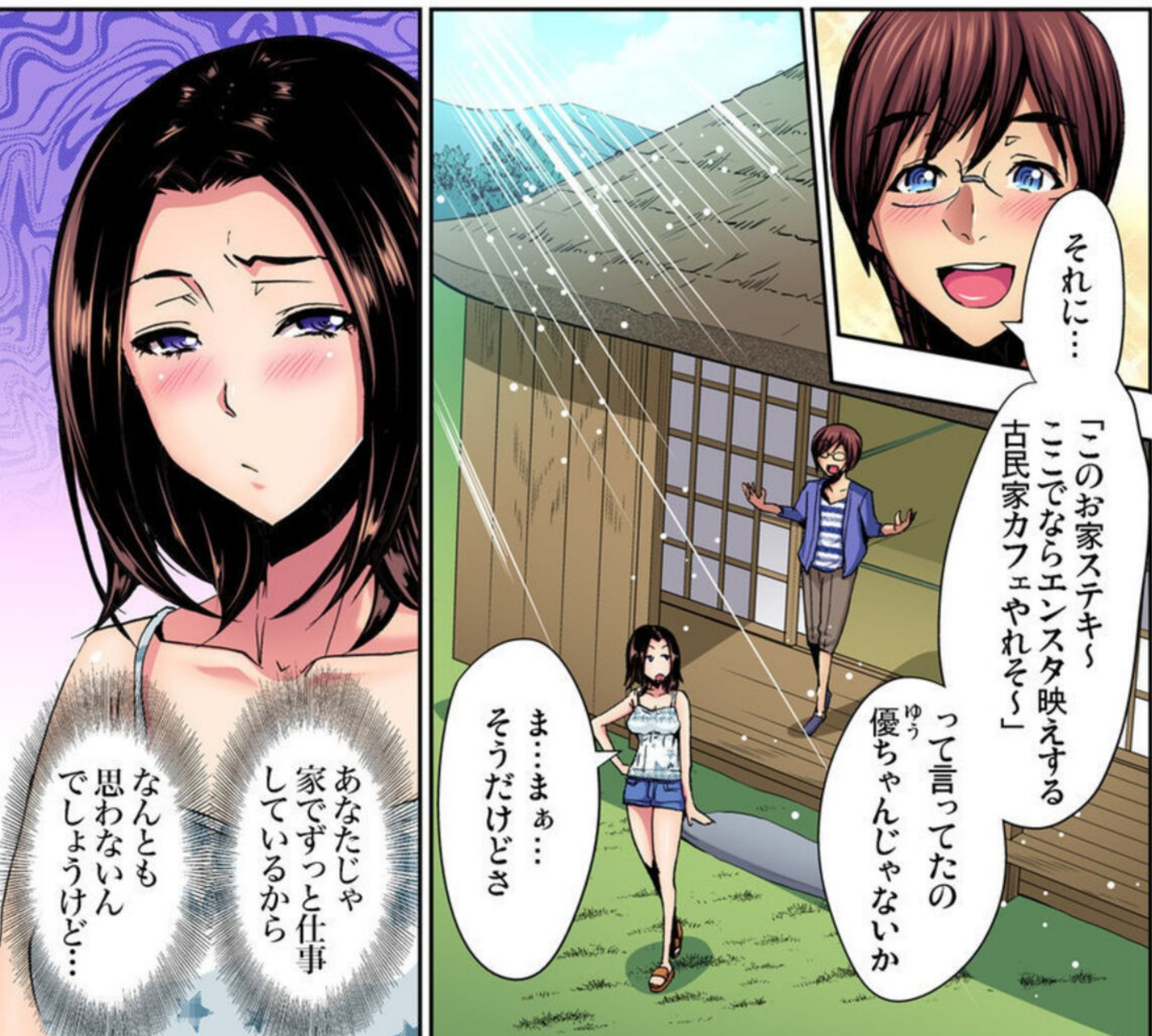
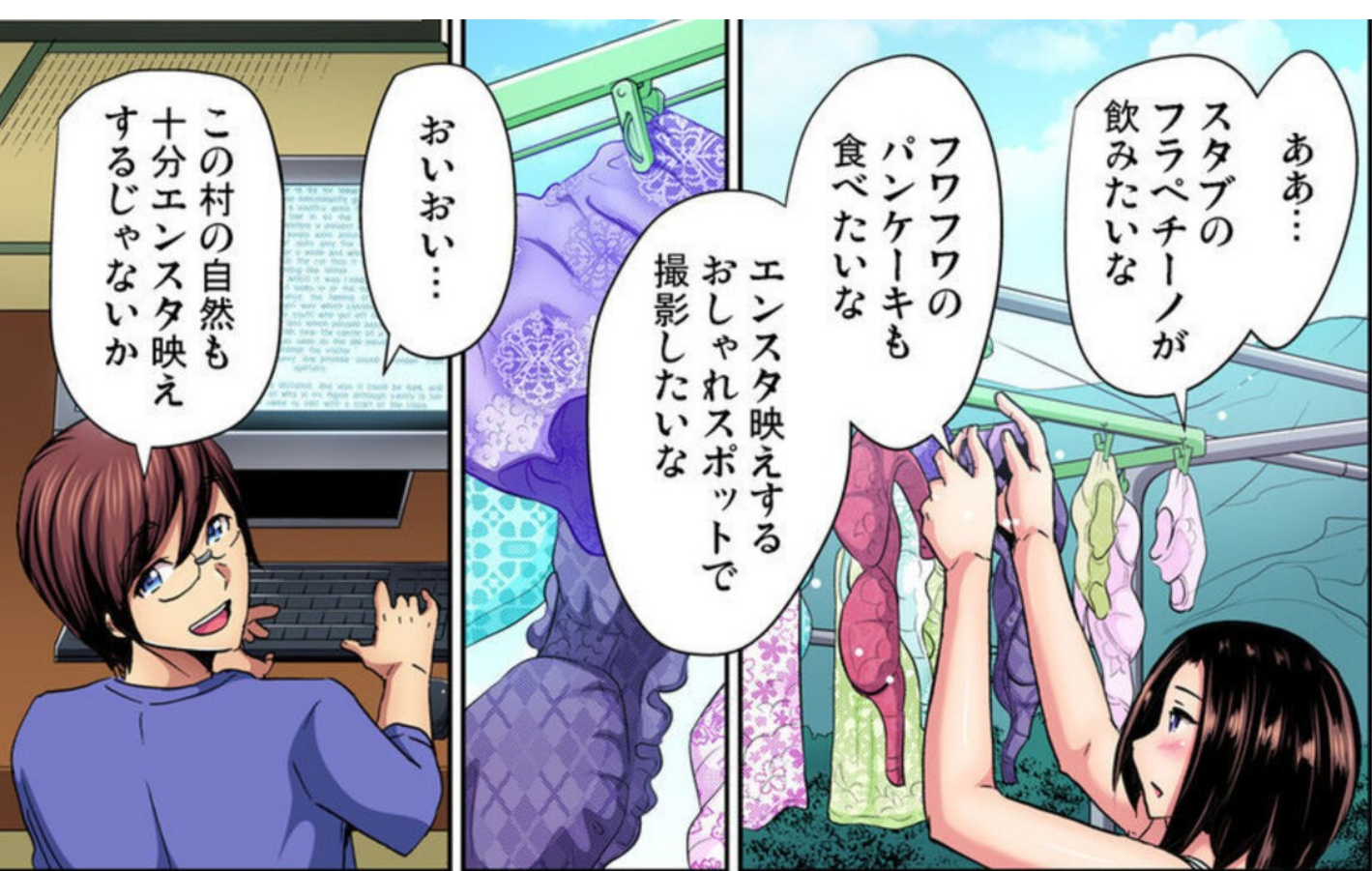
フウ

あち…



一番近い
コンビニですら
25キロ…

何が楽しくて
こんな所に
住まなくちゃ
いけないのよ



りんかんきょう

「林間郷」という名のこの村は
過疎化という大きな問題を
抱えているそこで始まった
移住者支援制度――

格安な家賃で
家を貸し出し
3年住み続けられ
譲渡する制度だ

逆に言えば
そんな制度を作らなければ
山と川と畑……
そして老人だらけの
過疎の村に人なんか
来るわけがないということだ

東京育ちの
私にとって
この自然に満ちた
光景は

刺激が無さ過ぎて
息がつまりそうで
……
退屈そのものだった

奥さん

大根ツスよ
ウチのばあちゃんが
持ってたよお

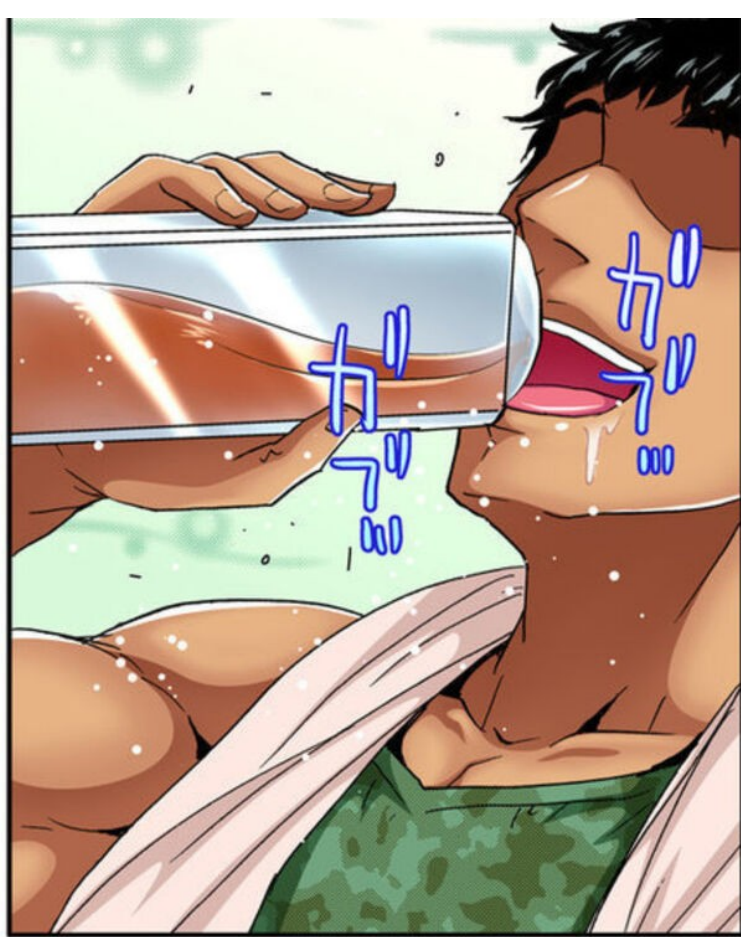
あ……いつも
ありがとうございます
ございます

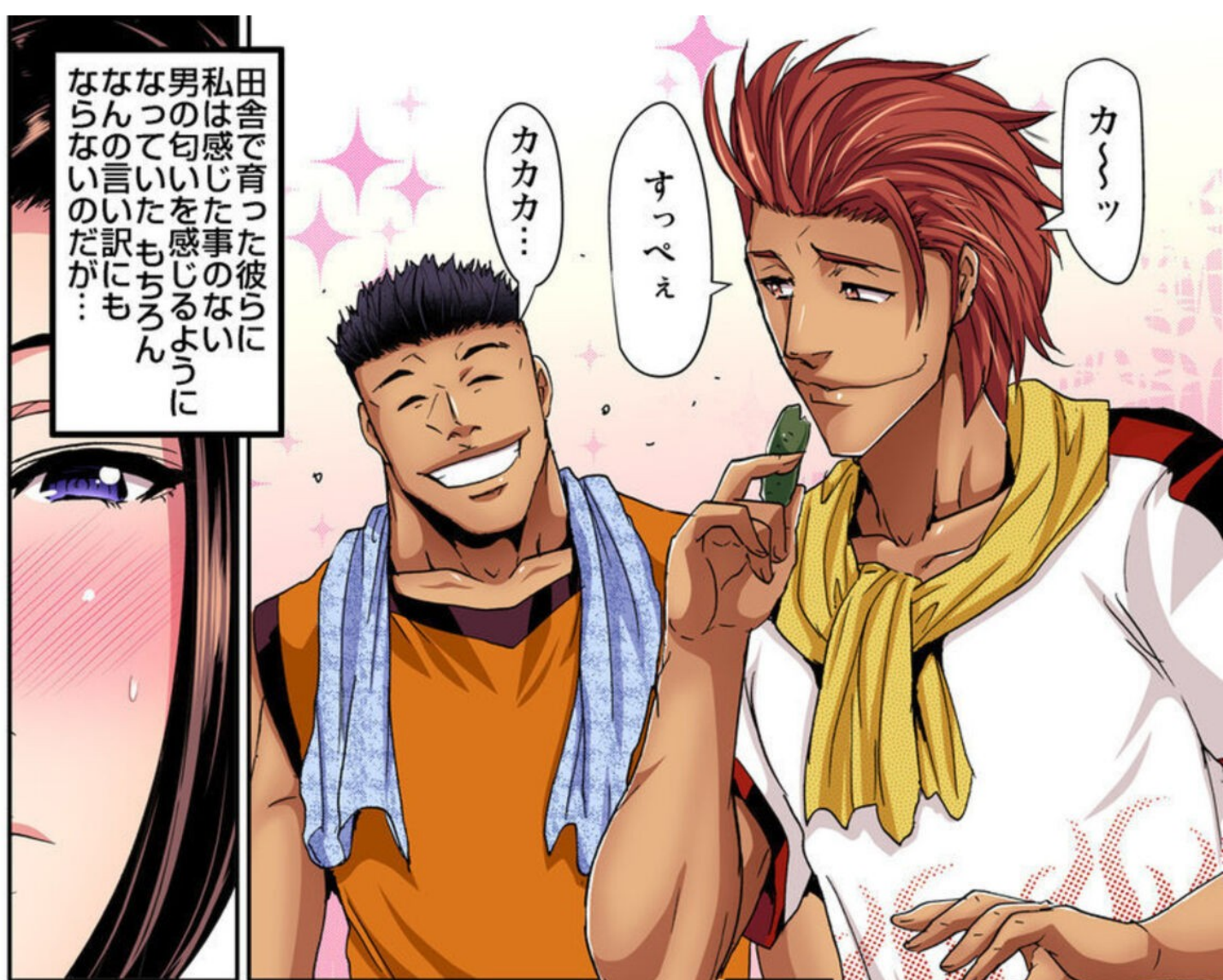
あ
アチ

お茶もらっていい？
奥さん？

あ……はい

ドカ





カ〜ツ

すっぺえ

カカカ…

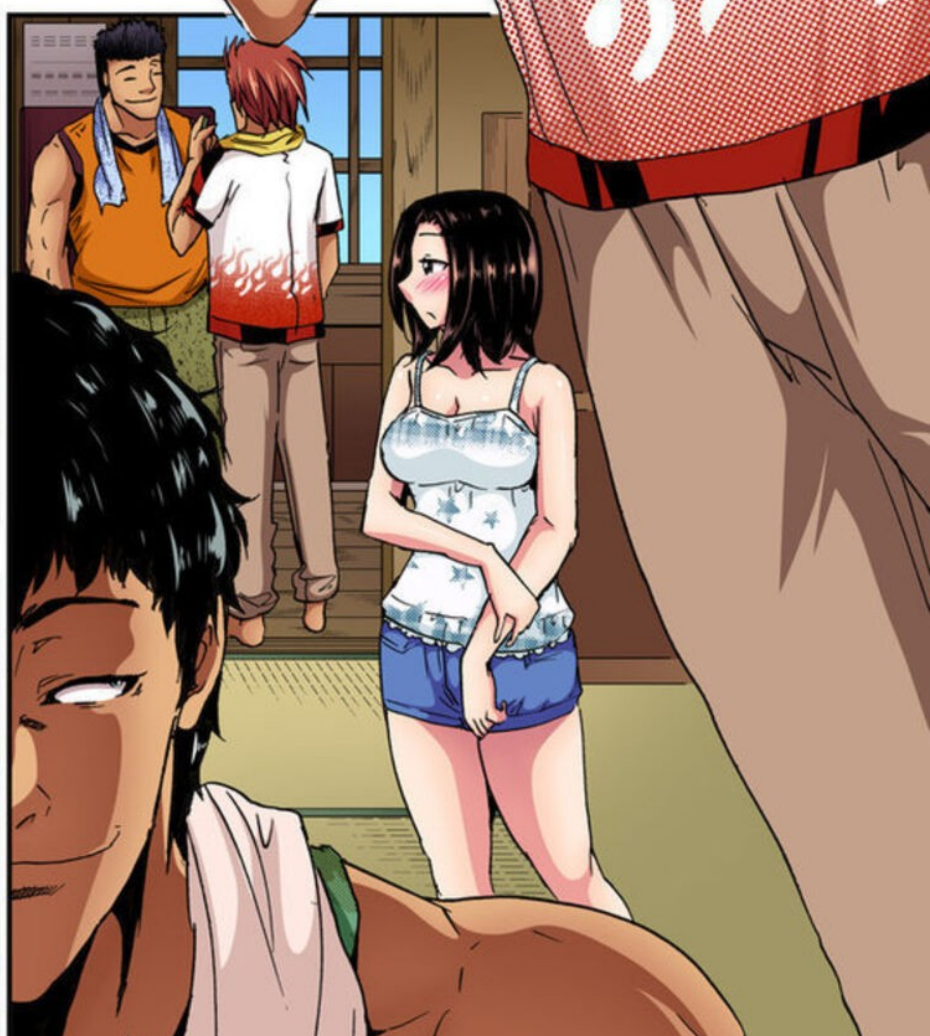
田舎で育った彼らに
私は感じた事の無い
男の匂いを感じるよう
なっているかも知らん
なの言いたくもない
が…



そう言えば
みちがみ
道上さんトコって
子供の予定とか
ないんですか？



子ども…





そうね…

え…ええ



ね？
優ちゃん？

まだまだ
考えた事ないな

ハハ…
子供かあ

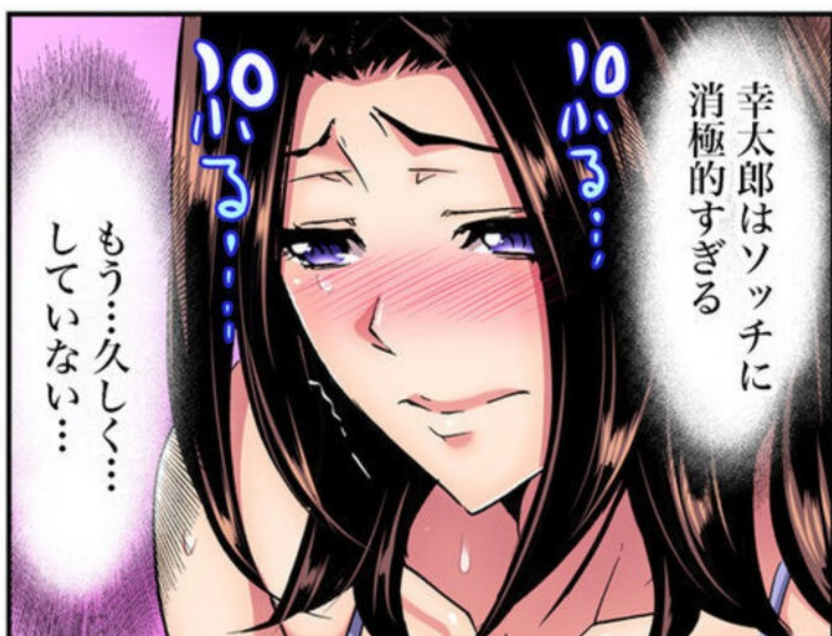
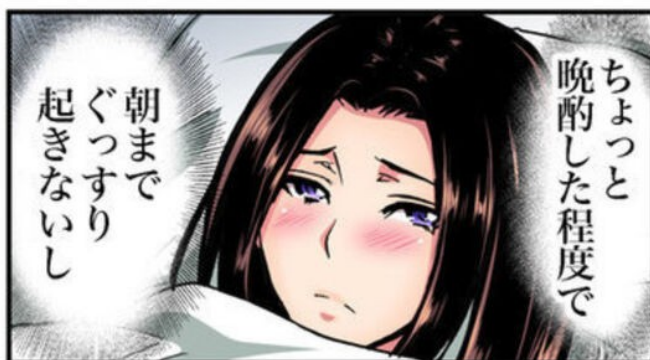
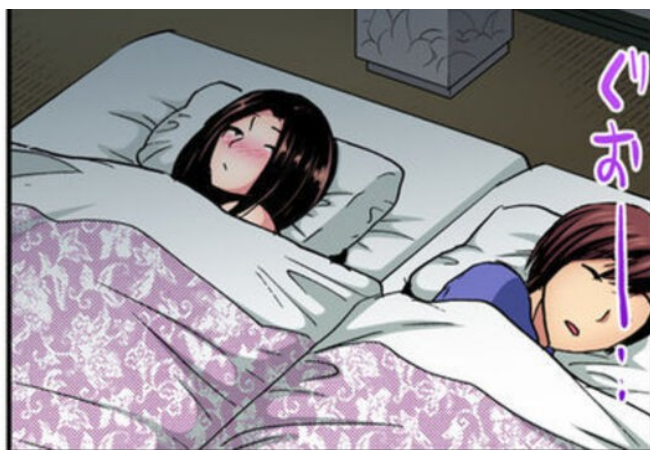


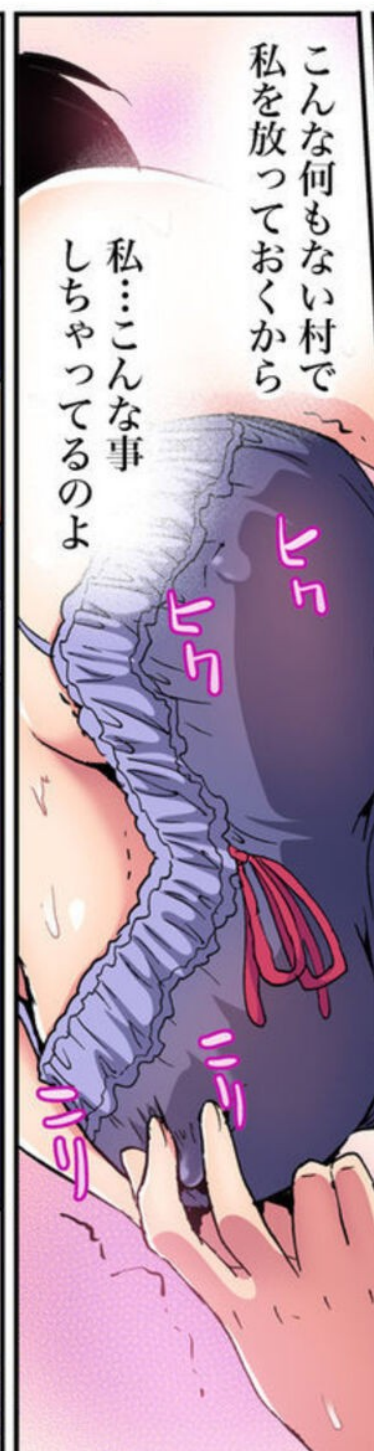
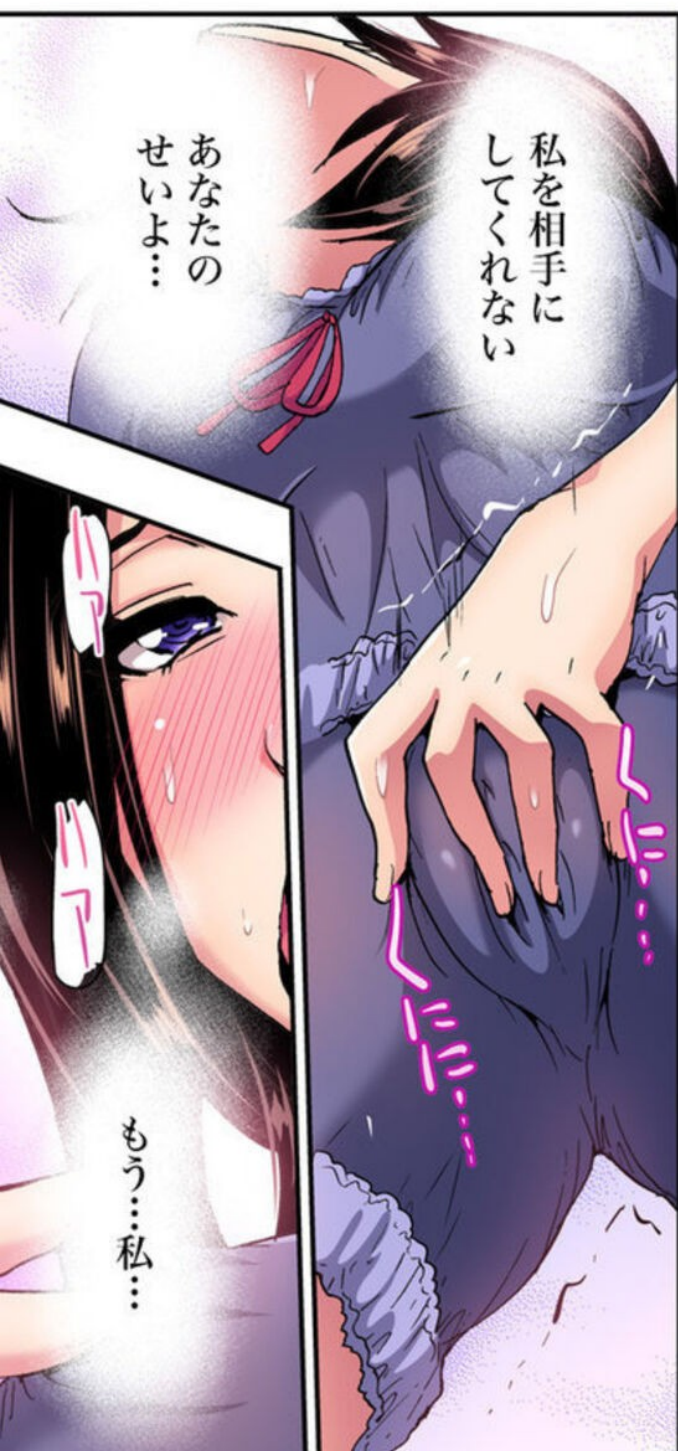
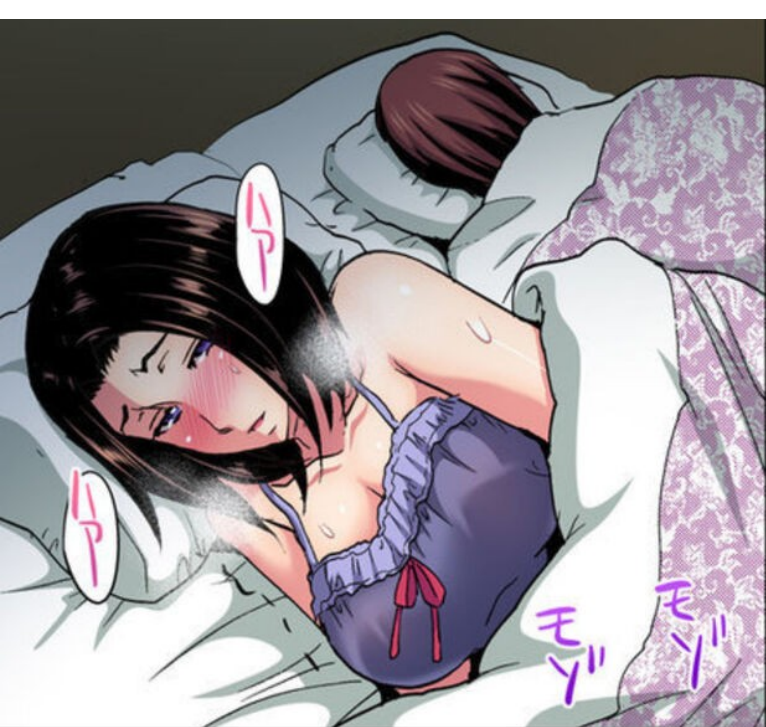
ホラ 林間郷って
過疎化が進んでるから
一人でも多く
村人が増えると
俺らも嬉しいし
村のためにも…なあ？

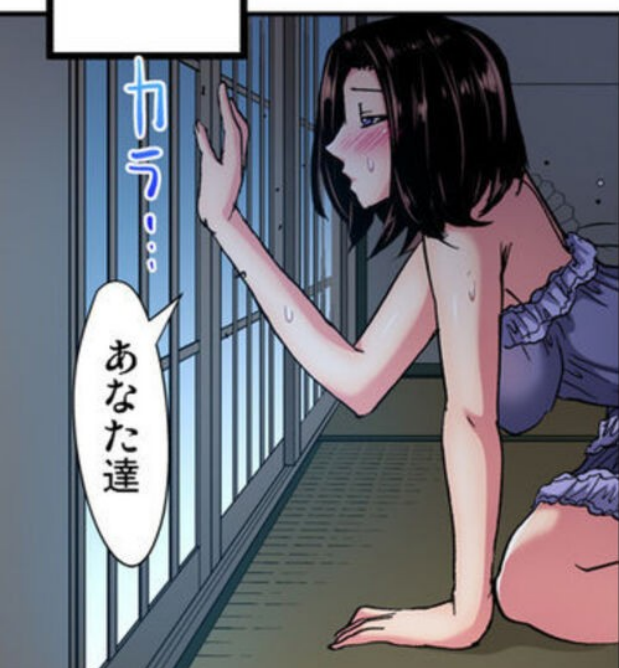
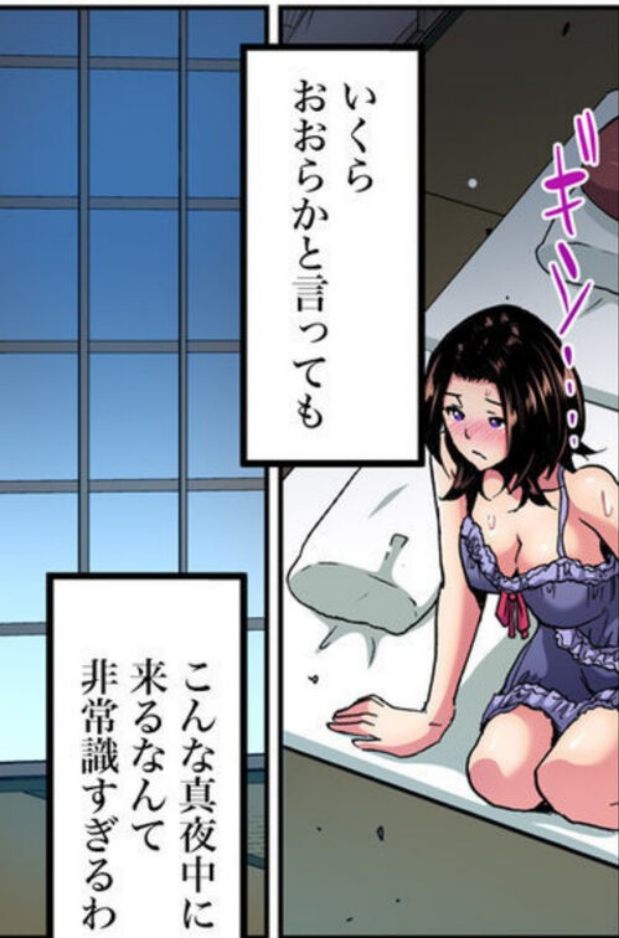
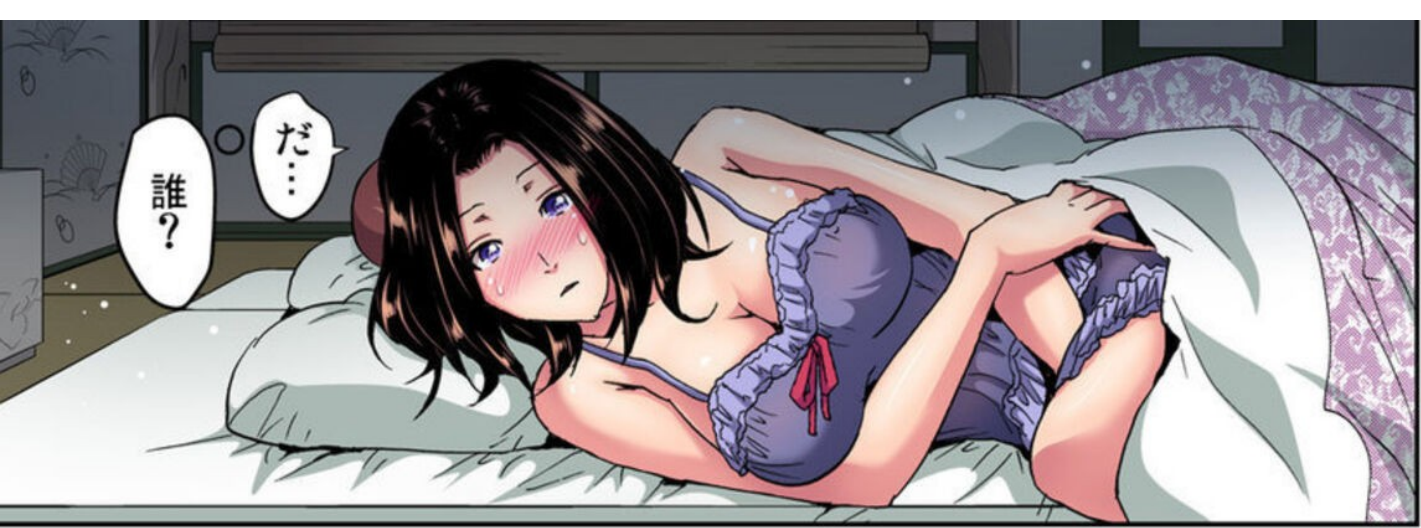
そうそう！

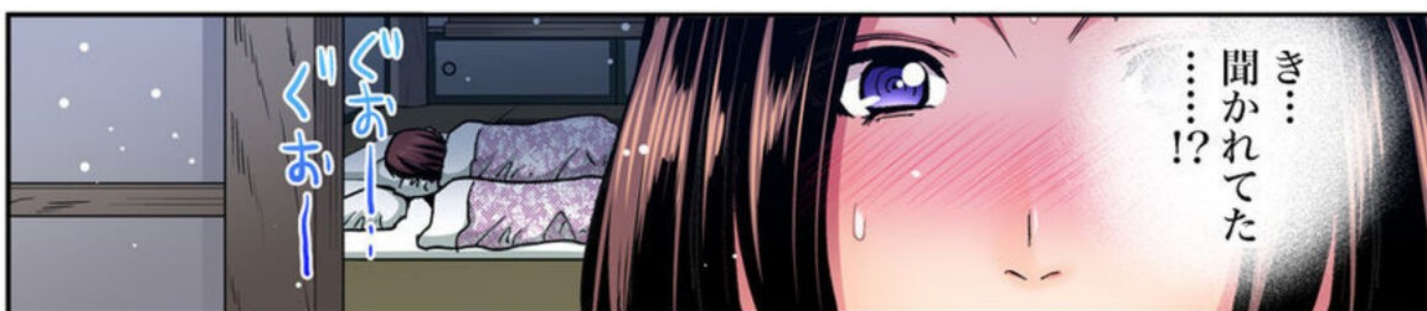
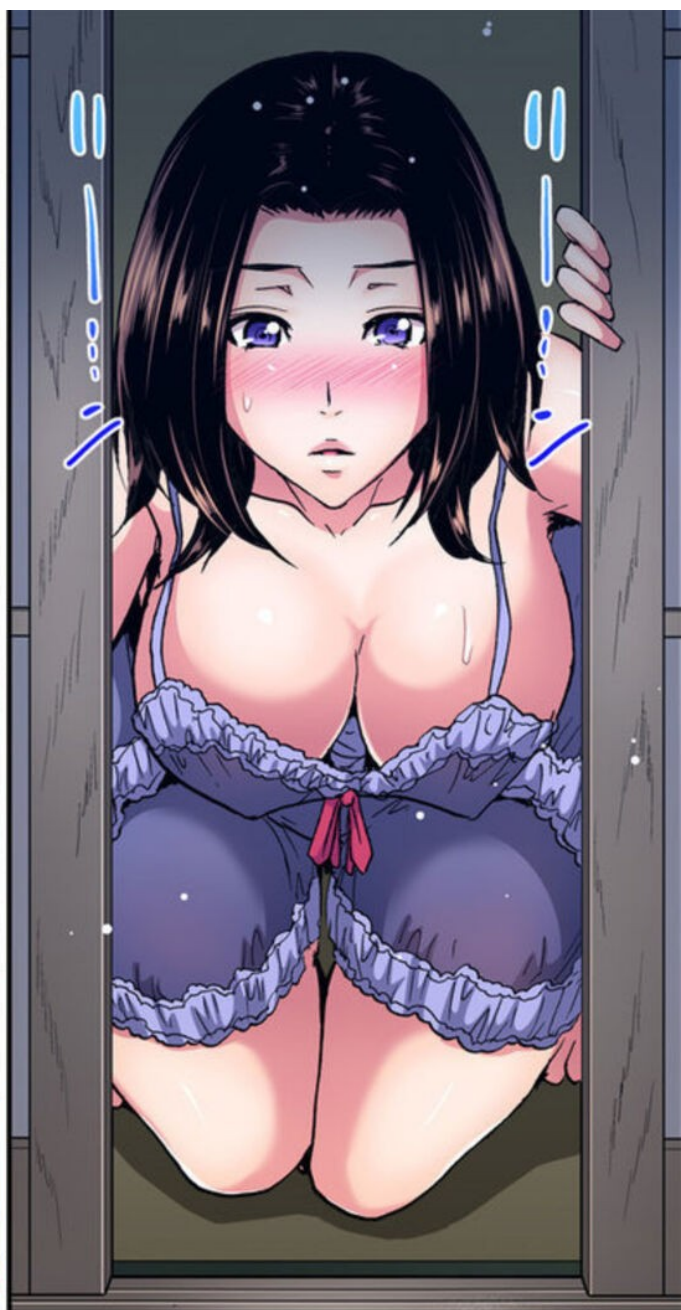


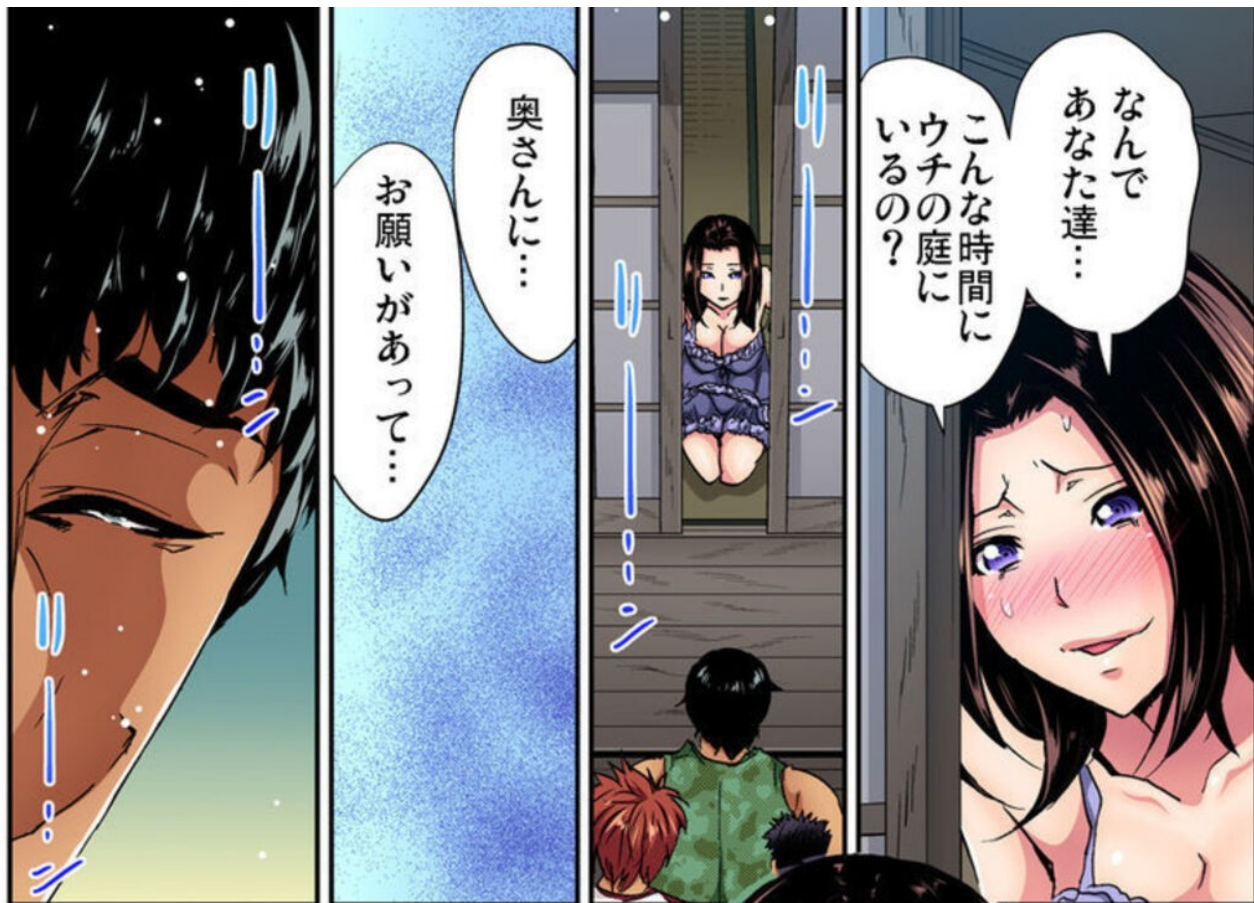
ふっん











なんで
あなた達…

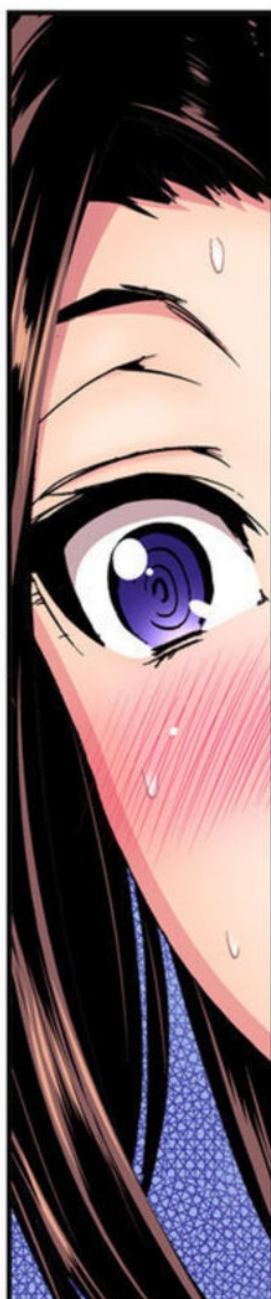
こんな時間に
ウチの庭に
いるの？

奥さんに…

お願いがあって…

一回でいいツスから

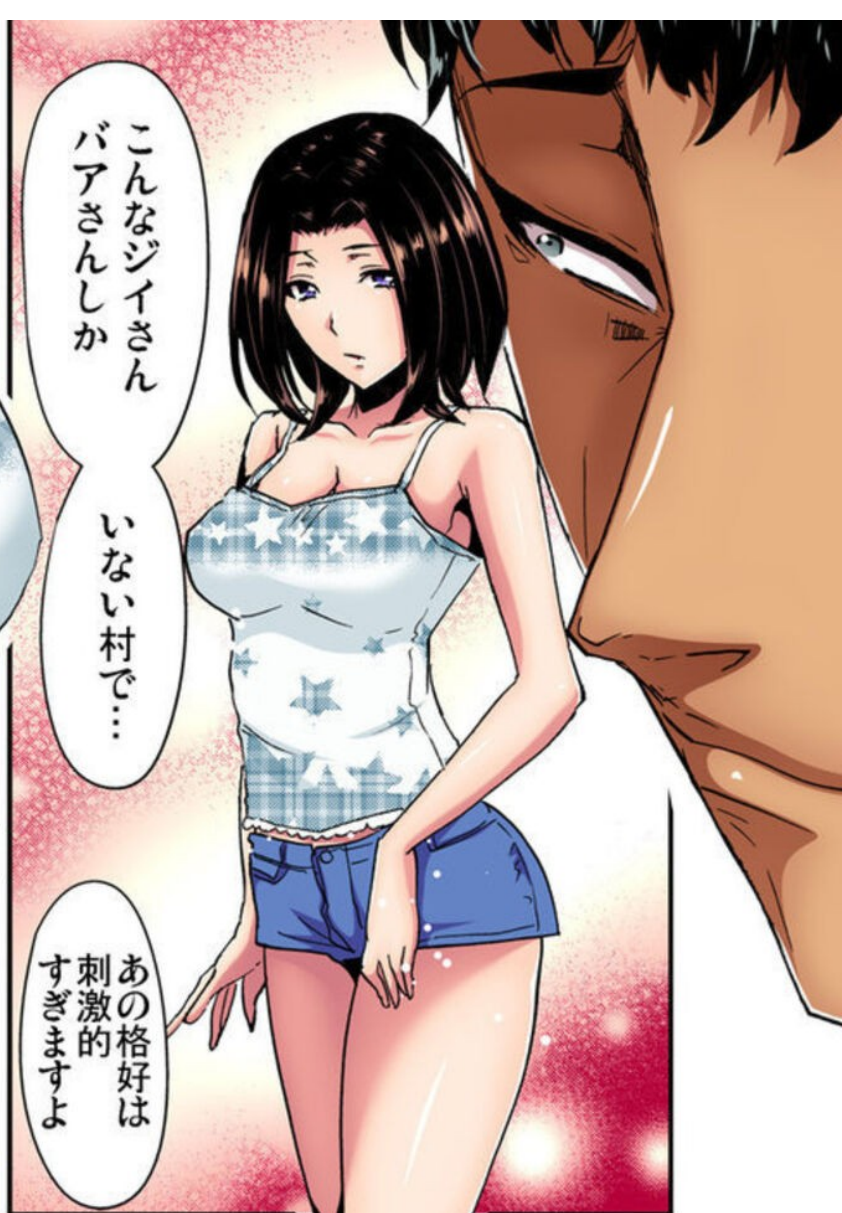
アソコ…
見せてもらえないツスか？





焼きついちゃいますから♡

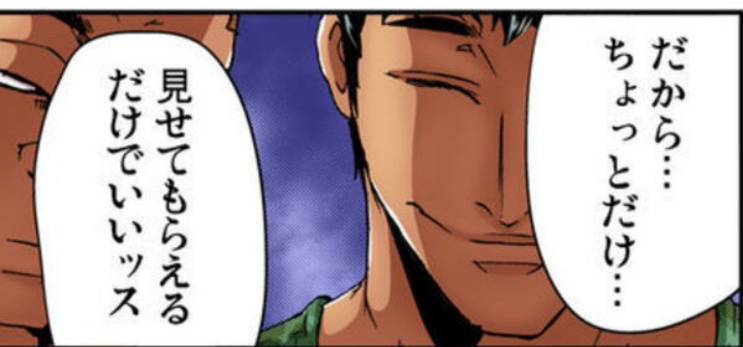
嫌でも
目ん玉に…



こんなジイさん
バアさんしか

いない村で…

あの格好は
刺激的
すぎますよ



だから…
ちよっとだけ…

見せてもらえる
だけでいいッス



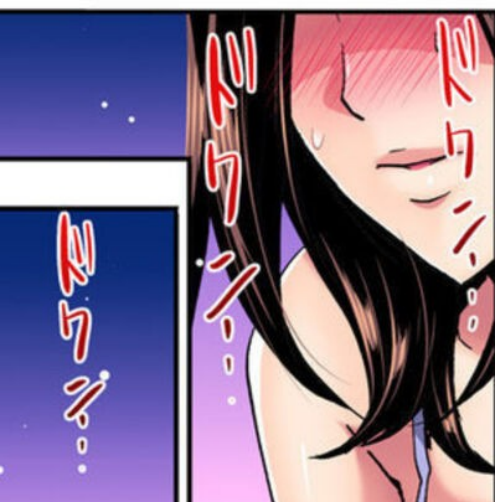
私の反対を
押し切って
移住を決めて
しまい

こんな退屈な村で
私を相手にしない
夫に対して…



この時の私は…

どうかしていたんだ

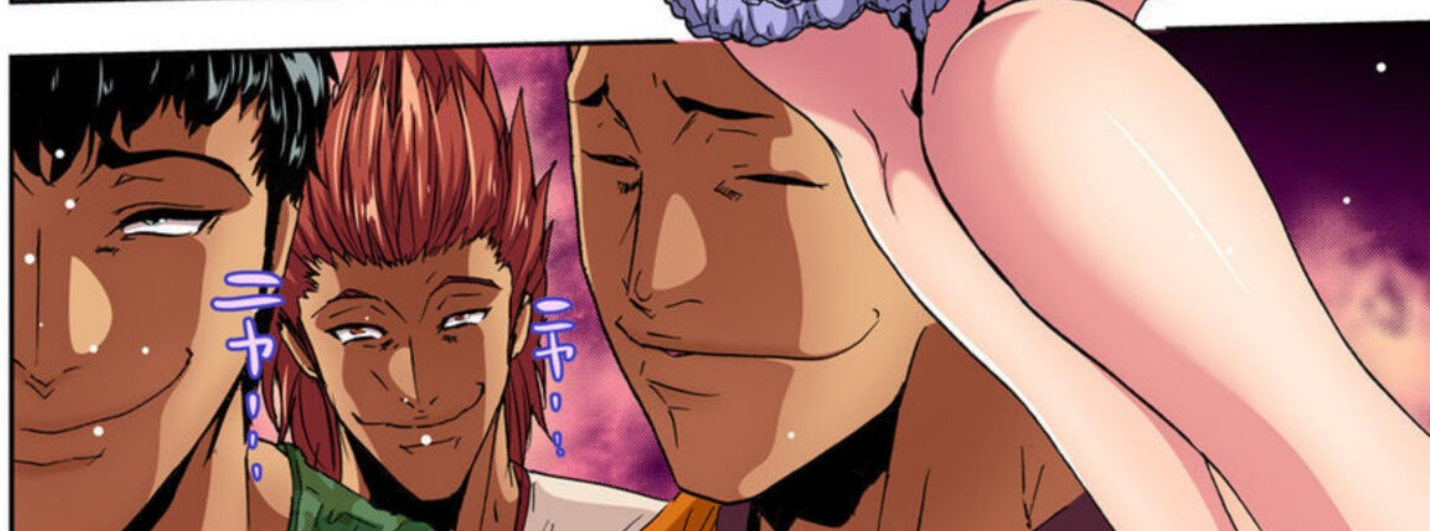


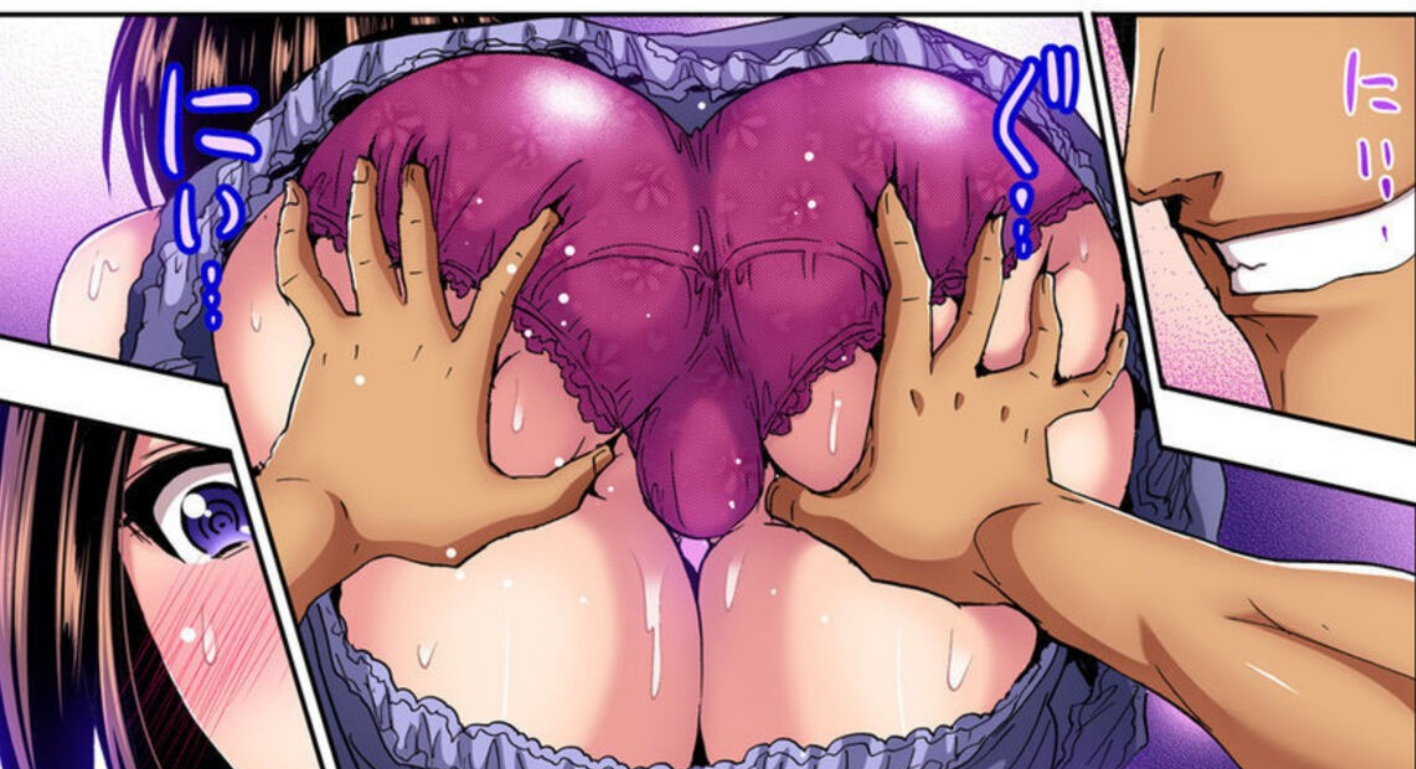
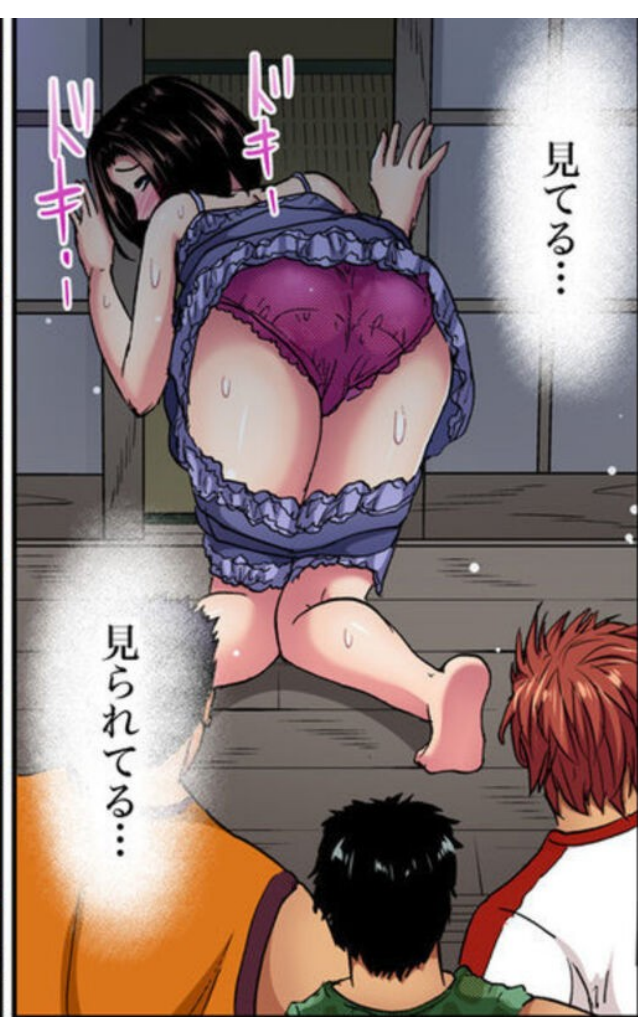
ほんの少し…

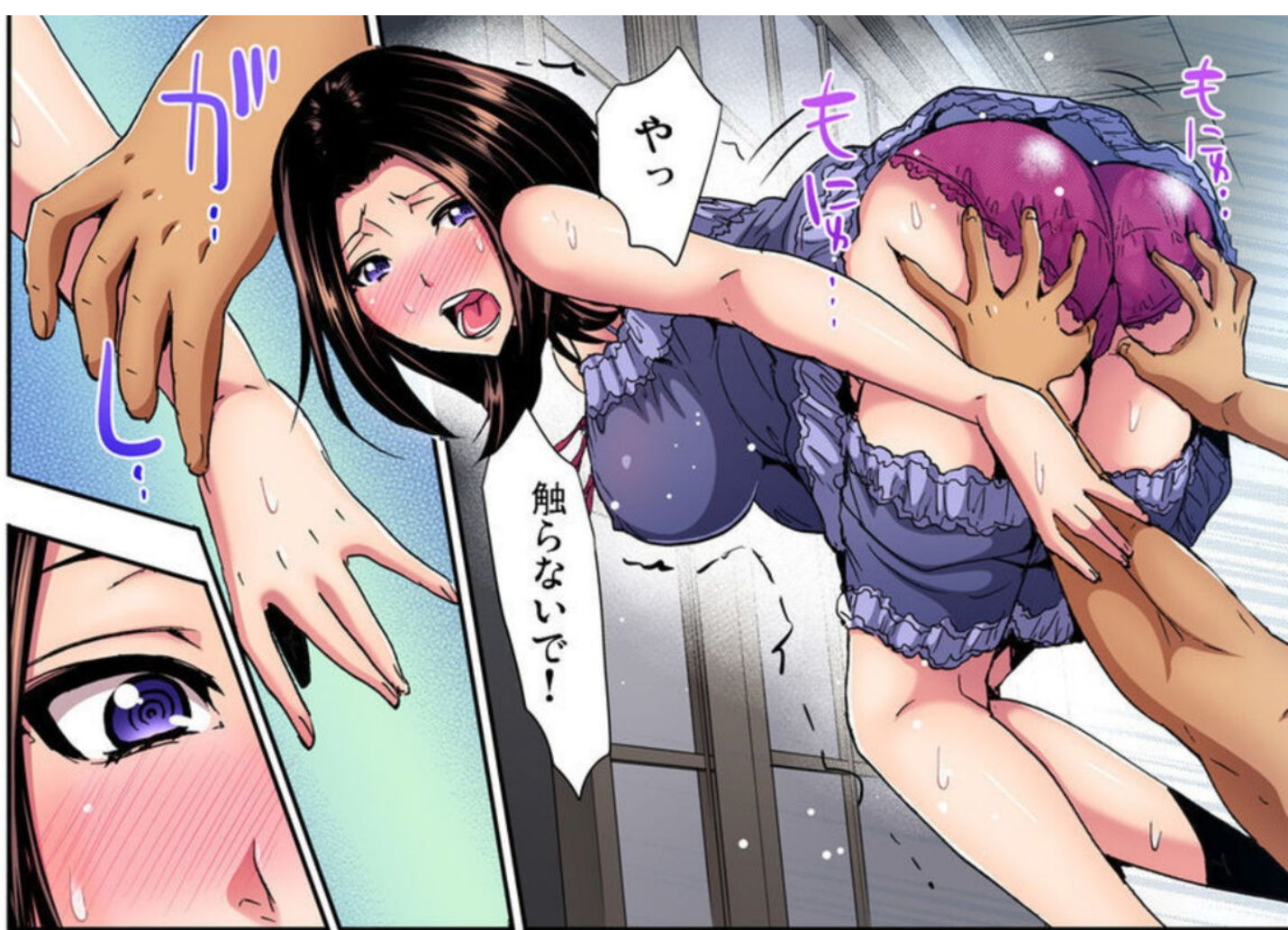
ほんの少し
罰を与えたかった



クワッ…









ちよっただけで
いいッスから…

ココ…

挿れて
いいッスか？

ダメッ！

そんなの…

約束と…

ちが…う…

今…
あなた達に
触られたら…

や…
あ…

わ…私…

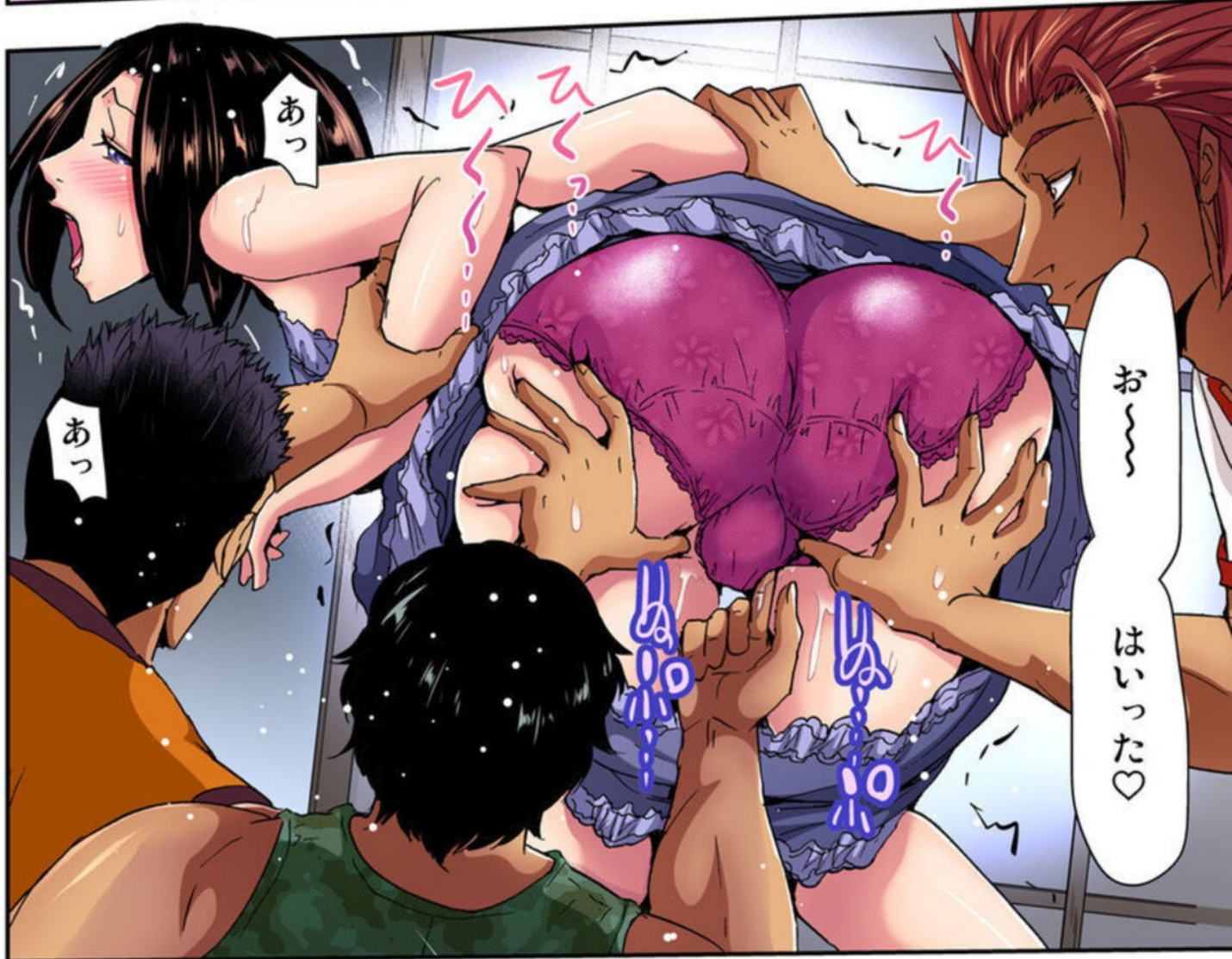
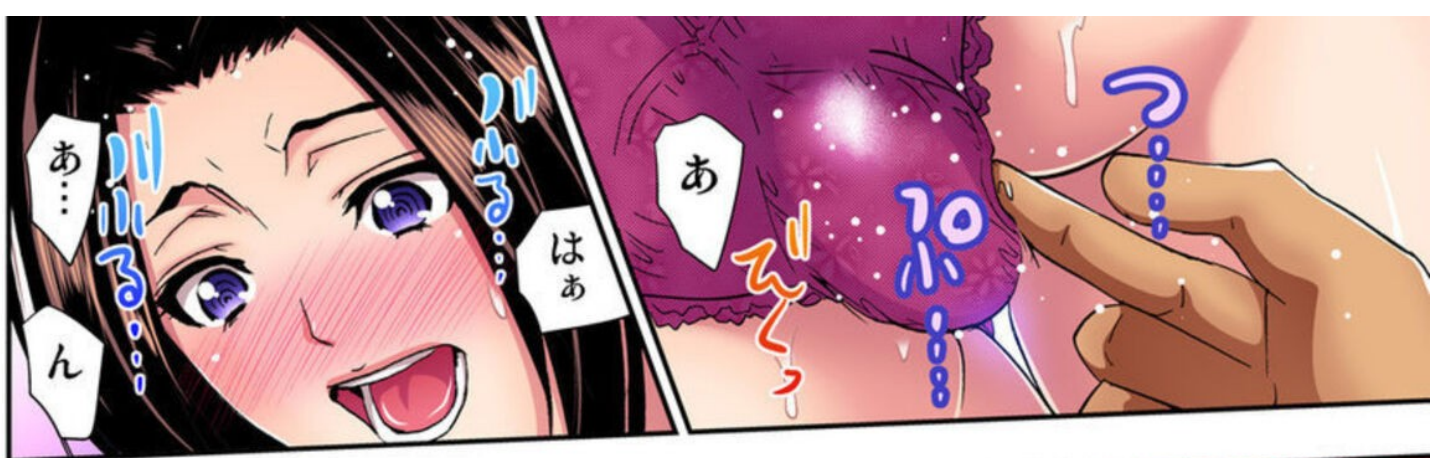
だ…め

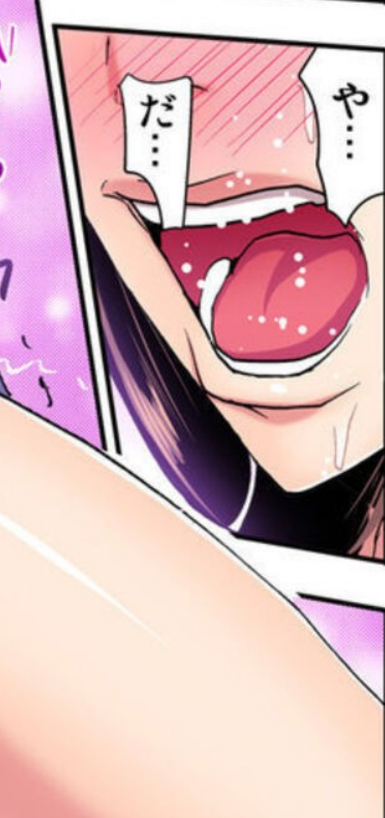
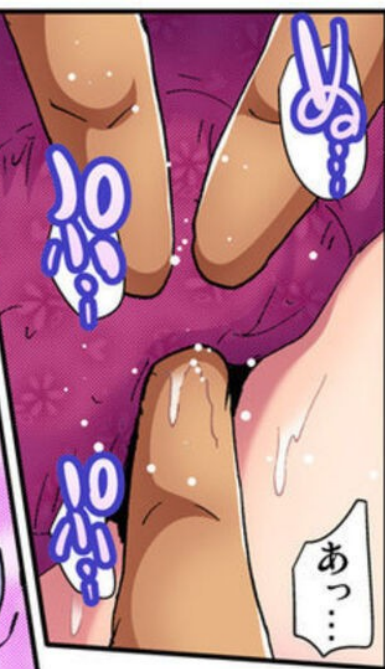
私…ああ…

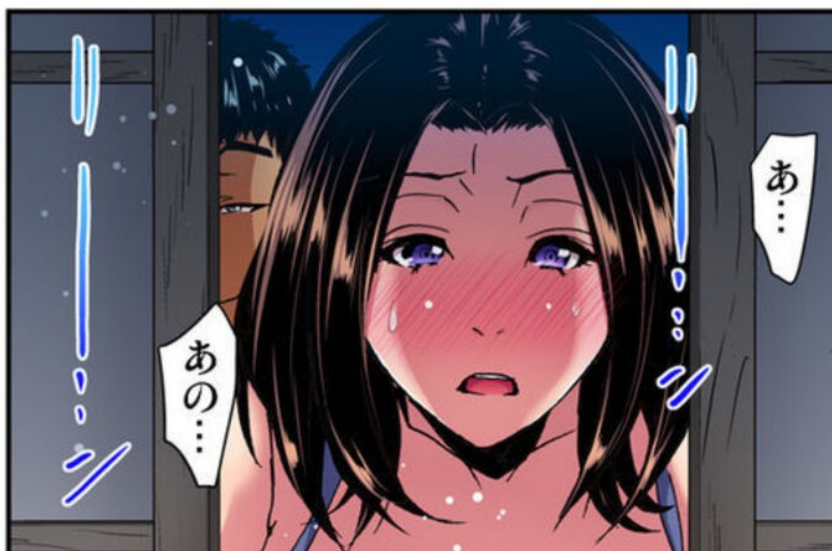
ダメ…

ちよ…

ま…







この作品はフィクションです。
実在の人物・団体・事件とは一切関係ありません。
本作品の無断転載・複製を禁止します。



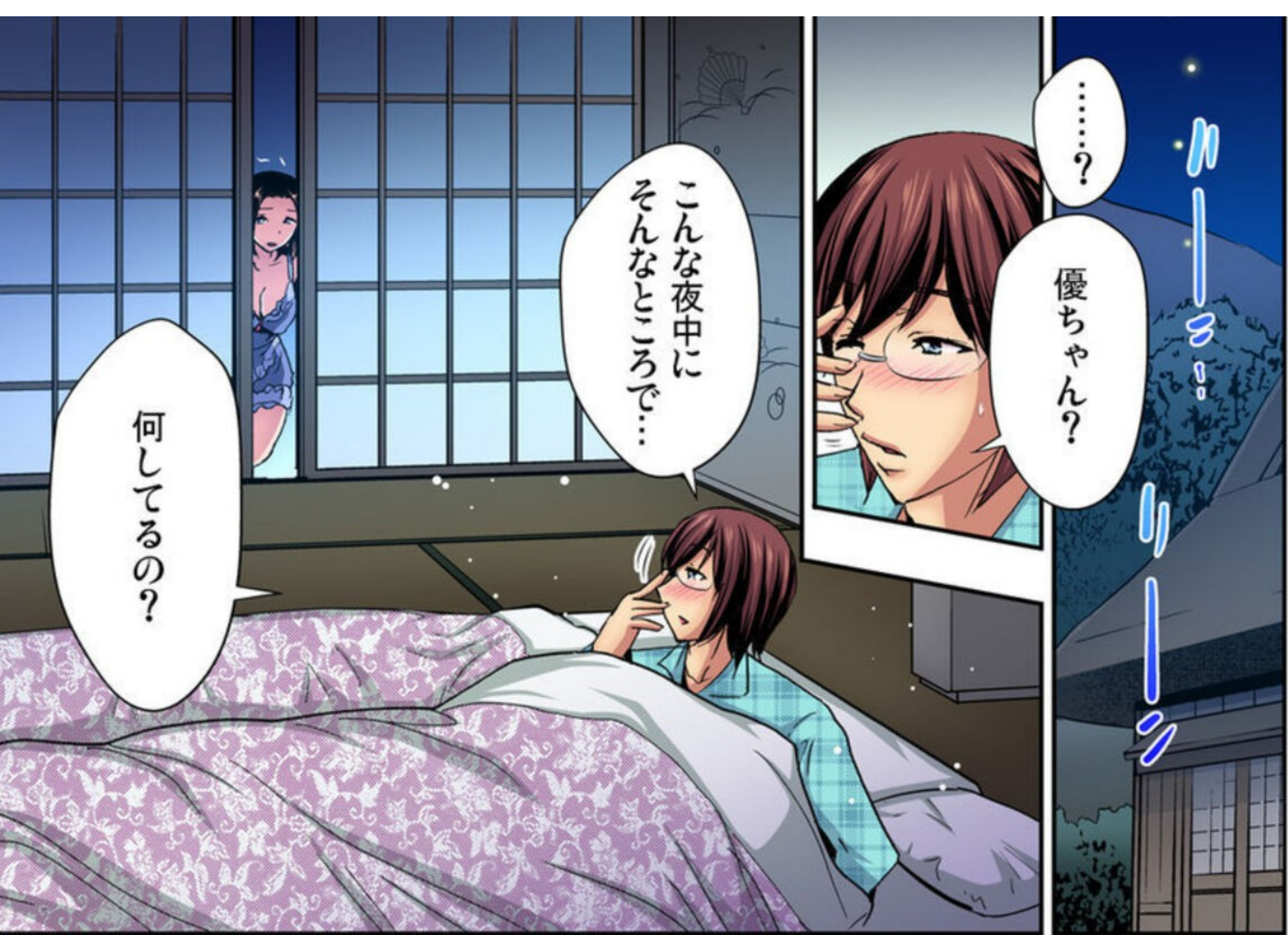
寝取り 無法地帯

林間郷

りんかんきょう

2

葵抄





声が…出ちゃう…

動かしちゃ…
ダメ…

お願い
……っ



ぐず…
ぐず…
にゅ…

……
ビク…

ビク…



やめ…て…

お願い…

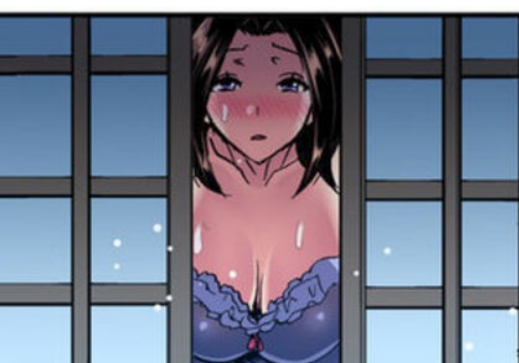


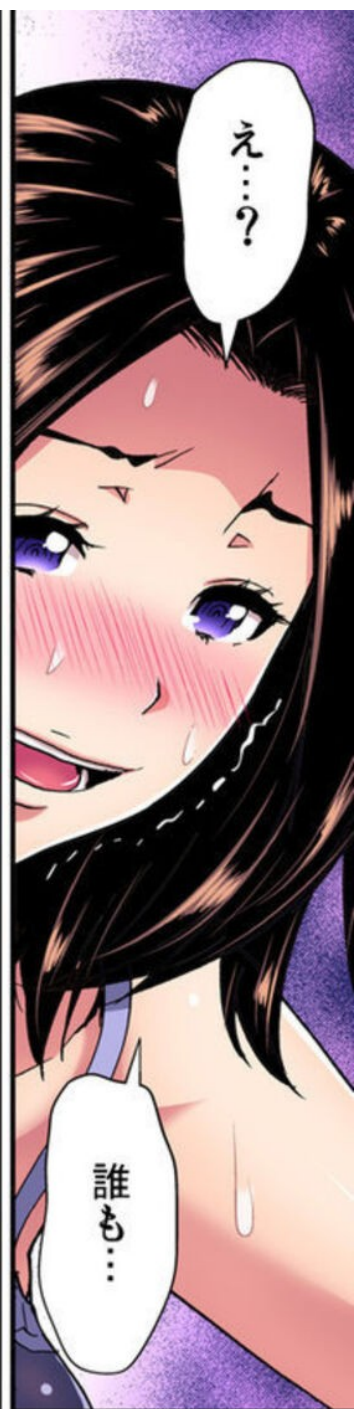
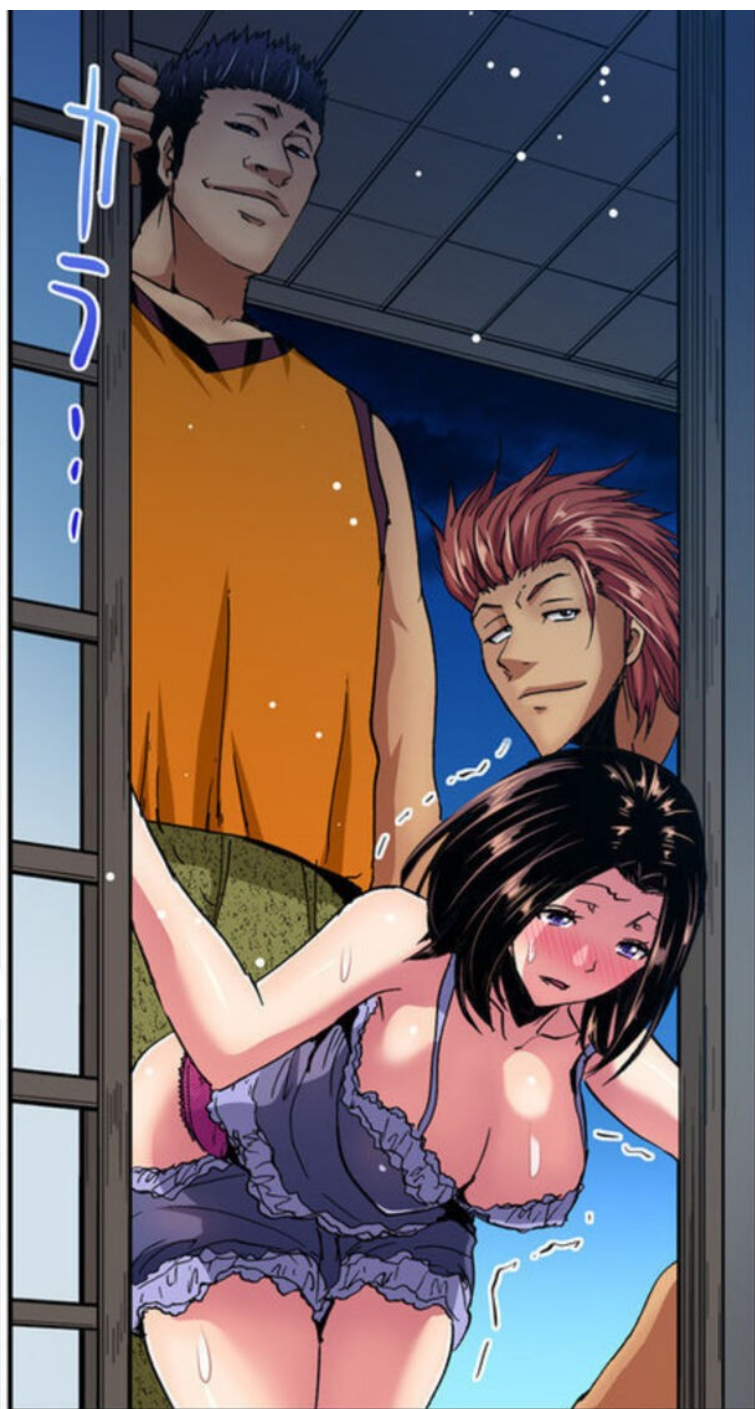
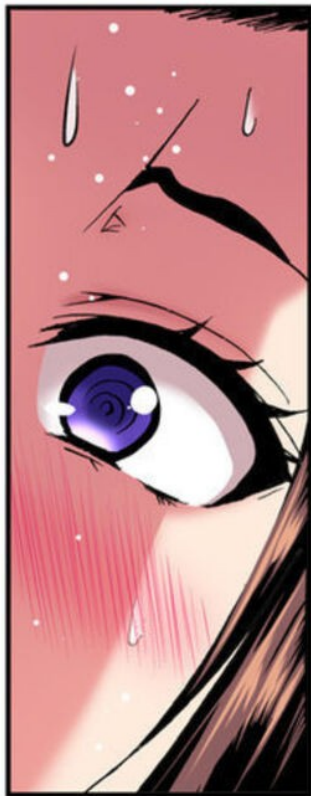
夫に…

気づかれちゃう
……



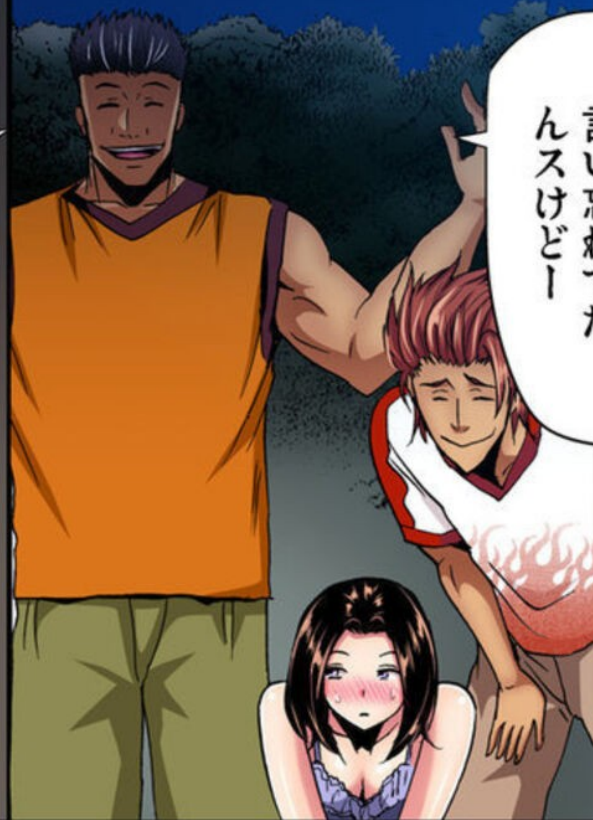
ダメ…







屋間に
言い忘れてた
んスけどー



お二人さんの
歓迎会を
やりたいと
思っているんス



そ…それを
言うために…

わざわざ
こんな時間に…？



ほくらみろ
こんな真夜中に訪問なんて
都会じゃ非常識って
言ったろ？

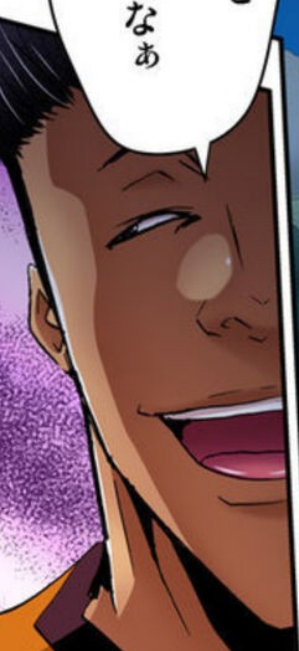
すみません
田舎じゃ普通に…



こんなド田舎に
移住を決めてくれた
んですから

お近づきの印
ってわけじゃ
ないんスけど…

この辺りの連中と
村の集会所で
パァッと飲みてえなあ
…って





嬉しくって是非とも
歓迎会に来てもらいたくて
すんません…
こんな時間に…



この辺りで
若いのは俺らくらいな
もんで…

お二人が
この村に
来てくれたから



そういう事
なら……

はい喜んで



うん…



よかったあ
明日の夕方に
村の集会所に
来てください

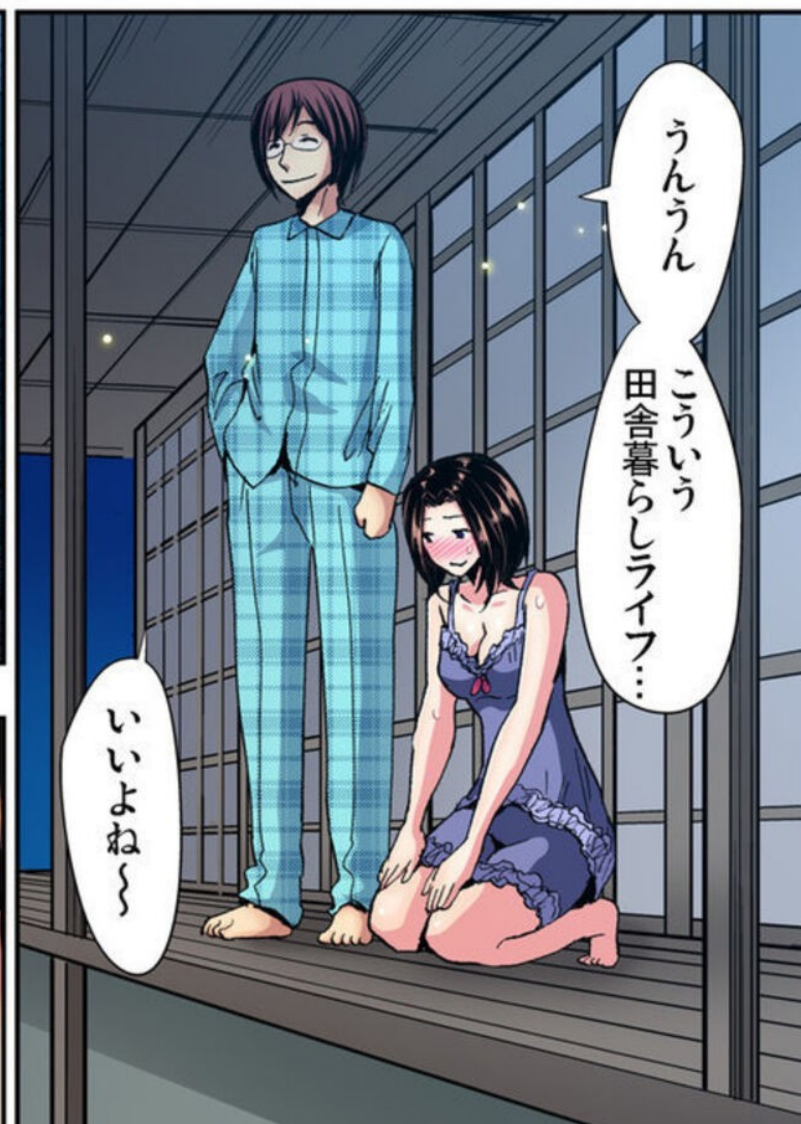
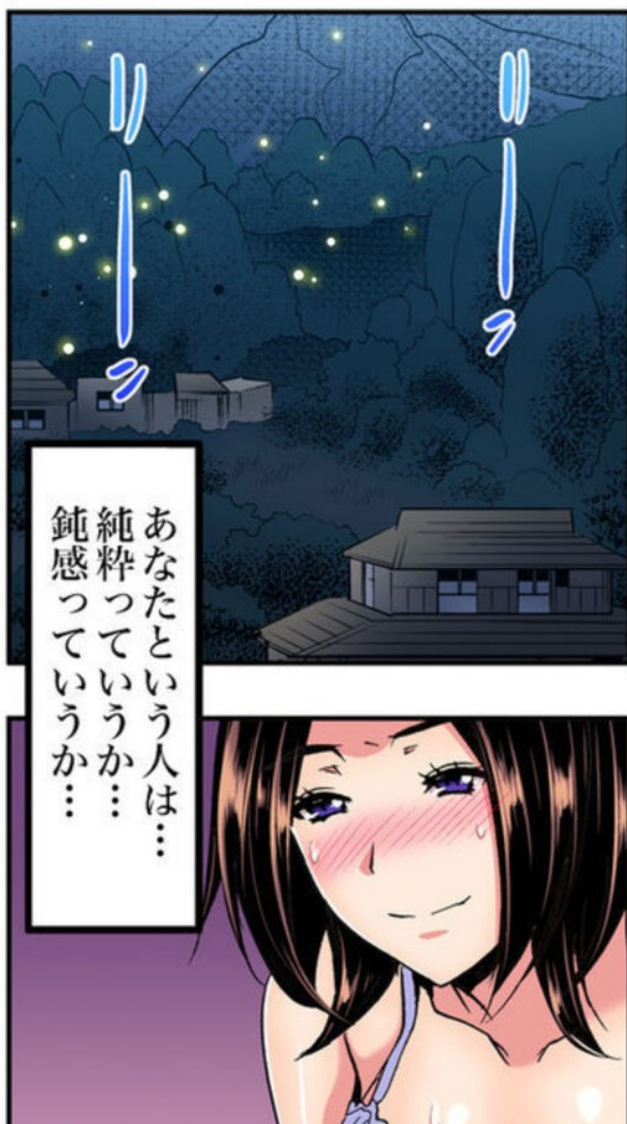
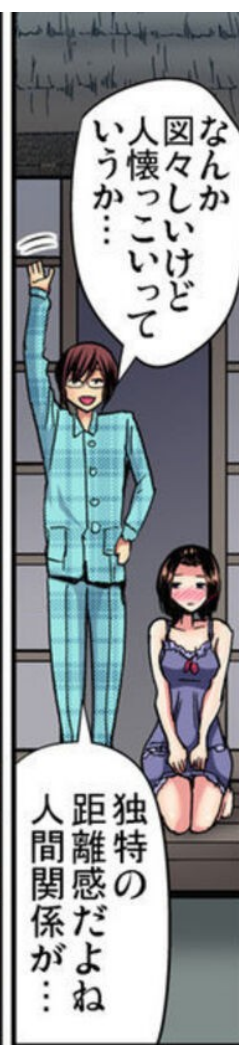
明日ですね



優ちゃんも

大丈夫だね？







結婚する時も
そうだった…

専業主婦は嫌だから
仕事を続けるよって
言っただけなのに――



まったく
気づかないの？

だから私の気持ちも
わかってくれないのね



私にだって
仕事があったのに…

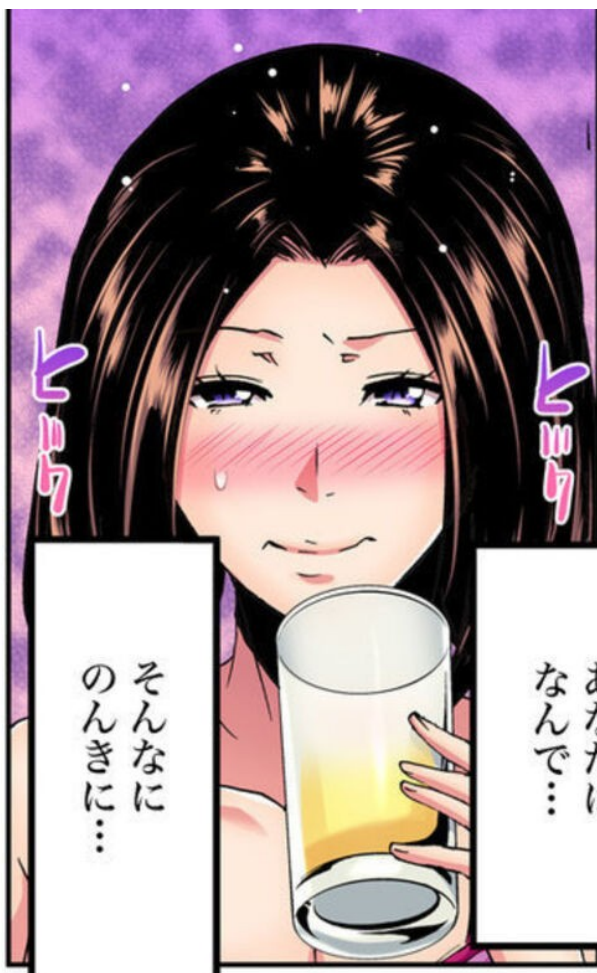
派遣から
ようやく正社員になれて

これからキャリアアップ
を目指して
バリバリ働こうと
思っていたのに…



なのに…自分勝手に
この村の移住を
決めちゃってさ…

僕の仕事の効率化には
田舎暮らしが適している
…だなんて



そんなに
のんきに…



あなたは
なんで…



なのに…



あ…いえ…
まだ予定は
なくて…

何人くらい
産むつもり
かいね？

子どもじゃよ

へえ
そうかいそうかい…



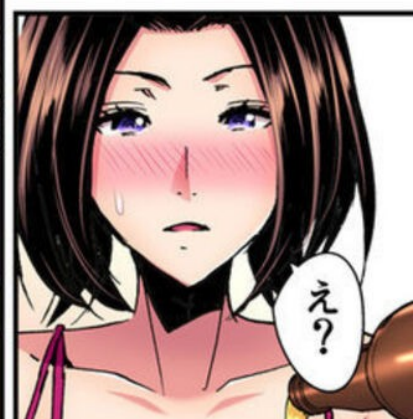
ニヤ

ニヤ

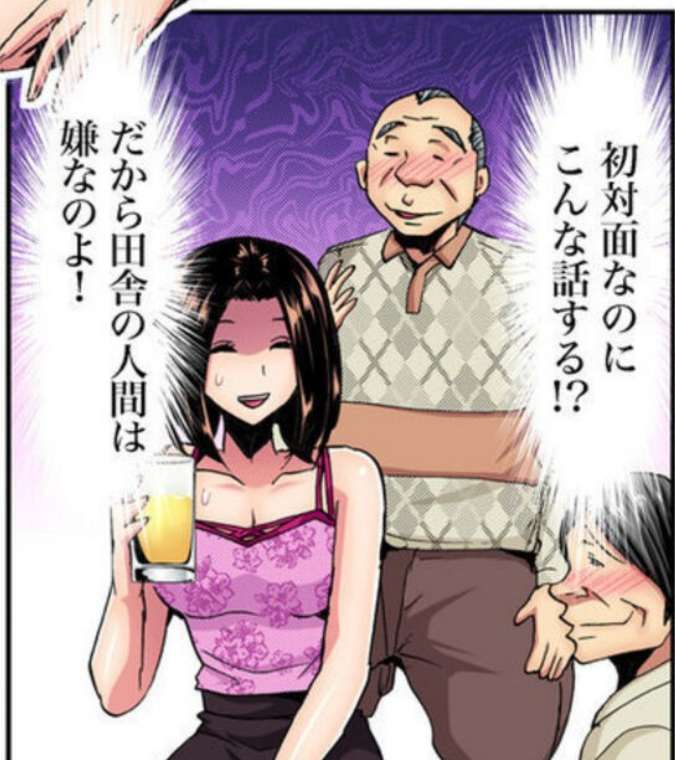
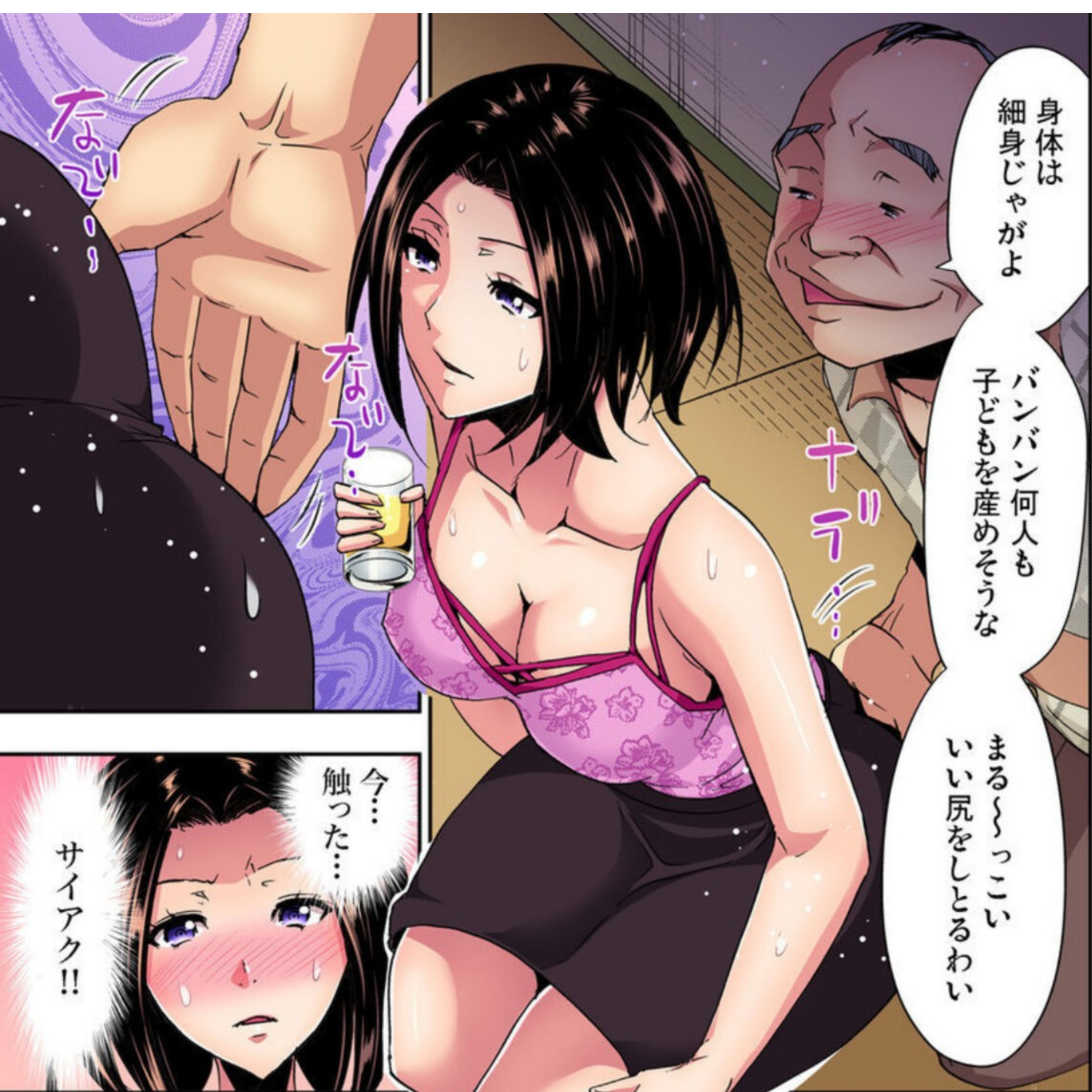


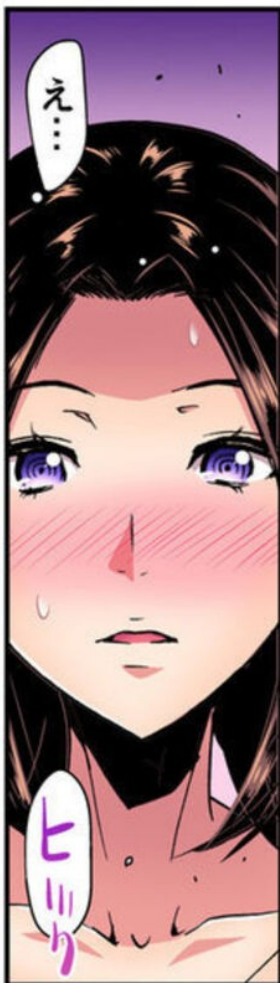
奥さん…

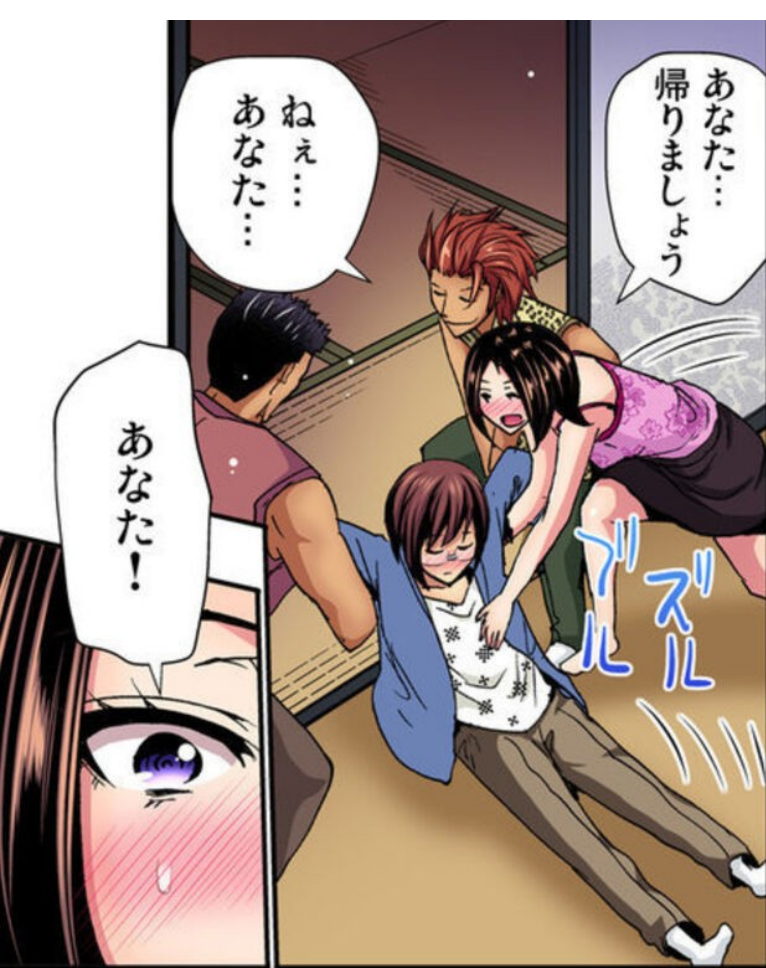
何人くらい
じゃね？



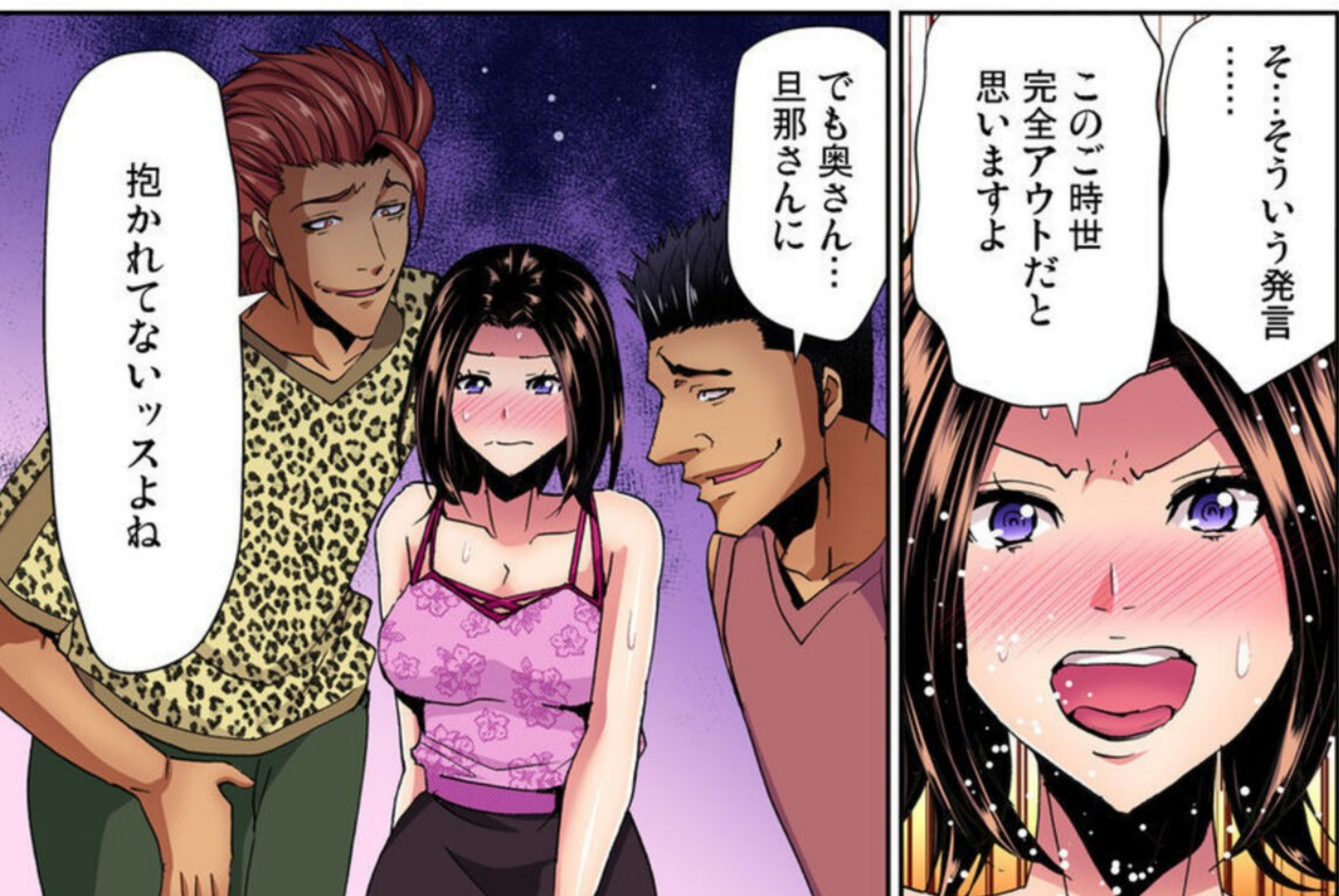
え？

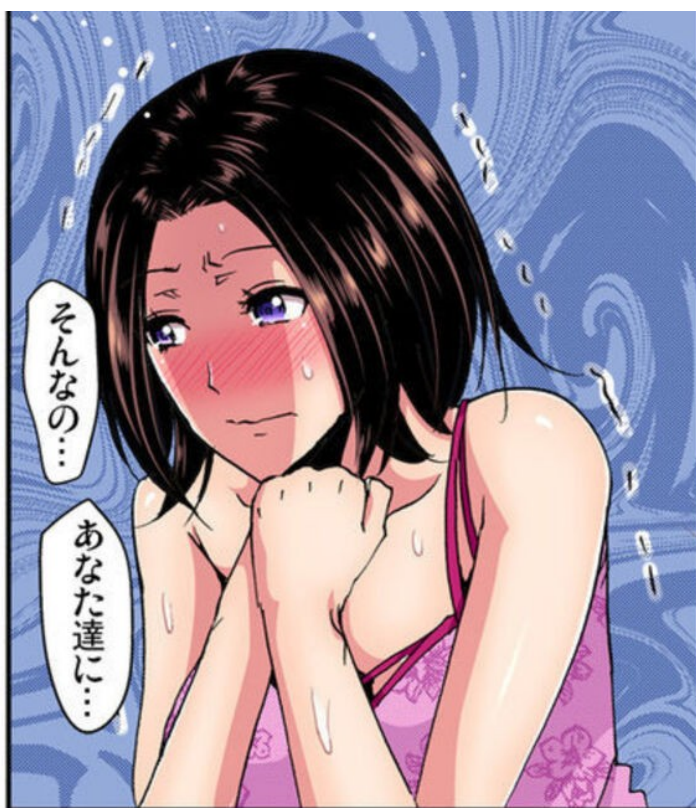












そんなの…

あなた達…



だから夜中に

外に聞こえちゃうくらい
声出してオ●ニーしてるん
スよね？



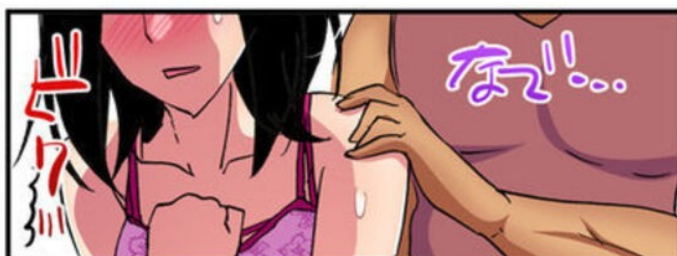
なんの…

関係も…

…ないじゃない



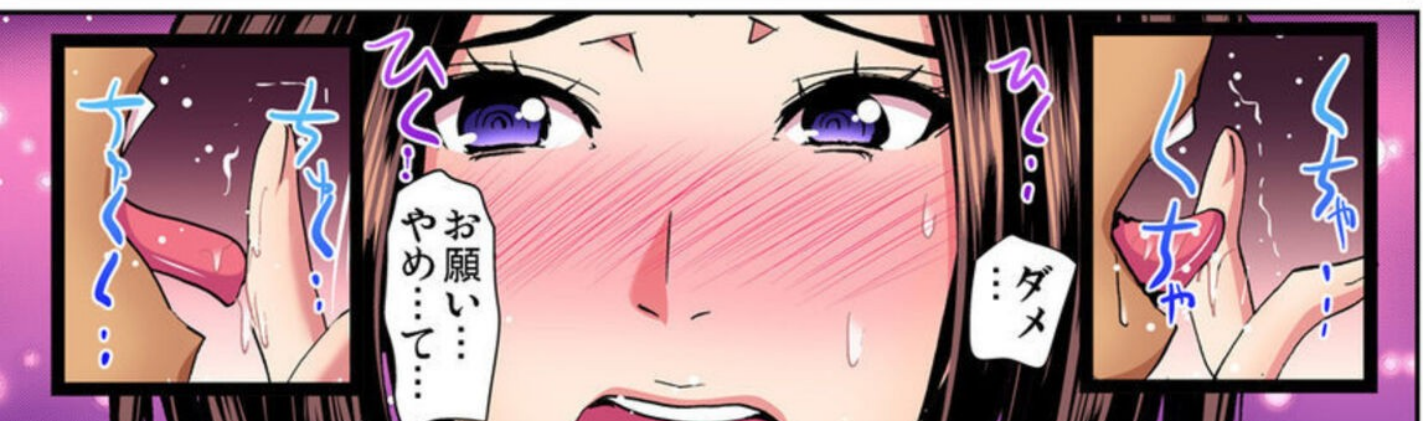
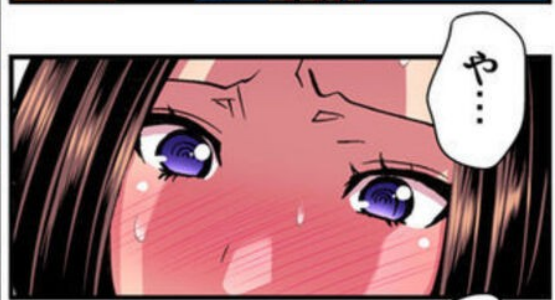
奥さん…



なっ！…



さ…触らない
でよ！







ガマン
できねーッス

もう...

えっ!?

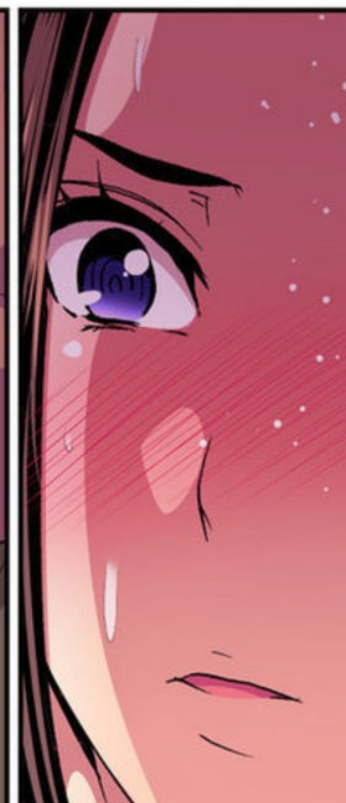
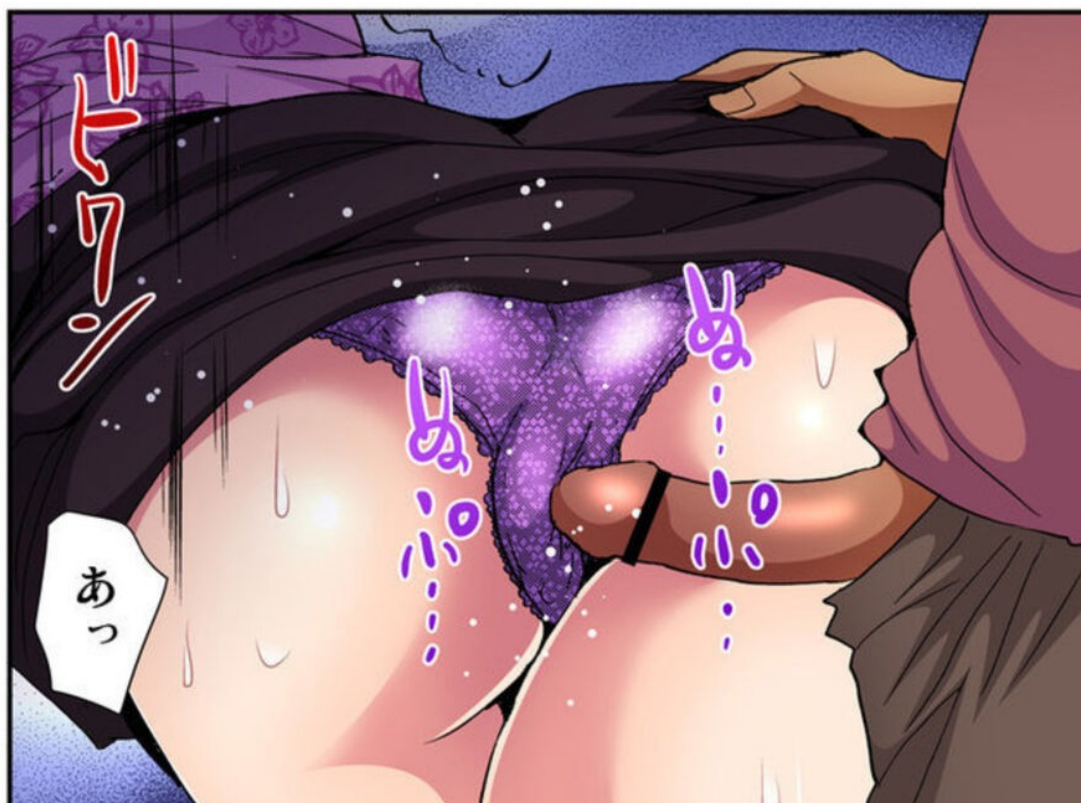
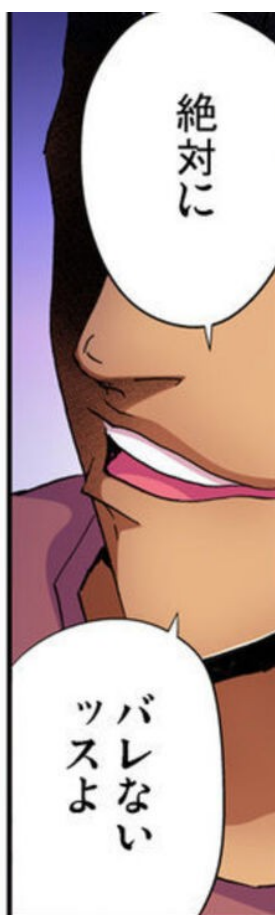
はぁ...

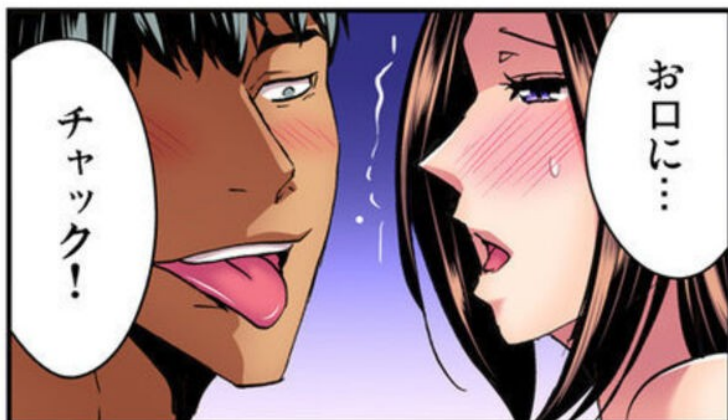
い
挿れていいッスか?

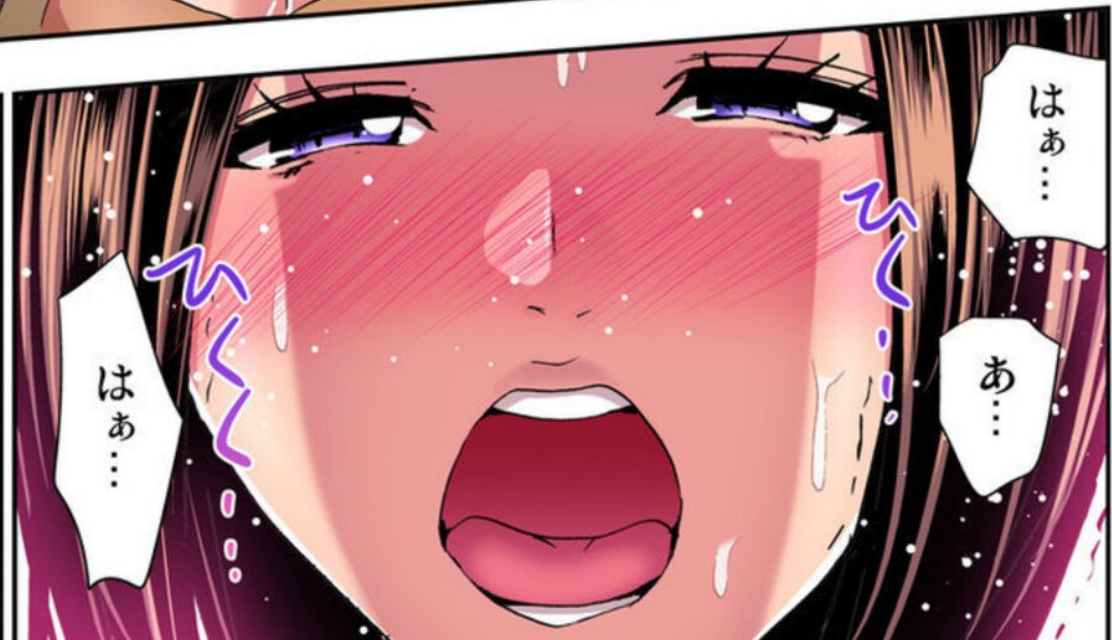
な...何を

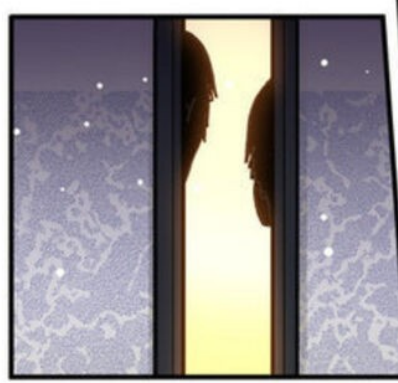
言ってるの?

夫がそこに
いるのよ?









この作品はフィクションです。
実在の人物・団体・事件とは一切関係ありません。
本作品の無断転載・複製を禁止します。